第５章　他都市の事例

１．　川越市の取り組み

（１）都市の選定理由

都心近郊に位置する埼玉県川越市は蔵を生かしたまちづくりにより，独自の発展をとげてきました。歴史的建造物や道を，まちづくりの資源として積極的に利用している参考例として，これらのまちを選び，そこにおける行政の役割や，住民の取組み，制度，人づくりなどを調査しました。

（２）川越

ａ．　概要

川越市は，埼玉県の南部，都心から約 30km の首都圏に位置し，人口 32 万人の都市であり（図 5-1-1），商品作物を生産する近郊農業、交通の利便性を生かした流通業，伝統に培われた商工業，豊かな歴史と文化を資源とする観光など，充実した都市機能を持つまちです。

図 5-1-1　川越市位置図

メインストリートのひとつである一番街は，JR 川越駅より 20 分ほどの所にあり，黒漆喰の外壁，重厚な瓦造りなどの蔵がつくり出す情緒豊かな景観に恵まれたまちなみであり（図 5-1-2），首都近郊の観光地として年間約 400 万人が来訪しています。

図 5-1-2　川越の蔵のまちなみ

このような蔵のまちなみが形成されたきっかけは，明治 26 年の大火が起こった際に蔵造りの建物が燃えずに残り，蔵が耐火建築であると実証されたことでした。その大火の後，周辺地域で「蔵ブーム」がおこり，明治 26 年から明治 40 年ころにかけて，たくさんの蔵が建てられたのです。それから戦後に至るまで，一番街周辺は，大型店を核ににぎわいを続けてきました。

しかし 1960 年代になって，地元百貨店などが相次いで駅前へ移転したことにより，若者を中心に集客が極端に低下してしまいました。「このままでは '街' はなくなってしまう」。その危機感からまちを残そうという有志が集まり，蔵の会が結成されました。

b．　蔵の会

蔵の会は，川越をなんとかしよう，見直そうという気運が高まる中，「商業の活性化によるまち並み保存」を目的として昭和 58 年に結成されました。会の掲げた目標は次の３つでした

①住民が主体となったまちづくり

②商業の活性化によるまち並み保存

③まち並み保存のための財団形成

これらの目標のもと，蔵の保存運動を担う人々だけでなく，青年会議所 OB，商店主，専門家などが集まり，蔵の町を残す運動がスタートしました。そして現在でも，蔵の保存を推進する存在として，蔵の会は重要な役割を担っています。

c．　一番街商店会

蔵のまちの中心を走る延長約 450mの商店街です。約 74 の店舗があり，そのうち半分が日用品を扱い，あとの半分が観光客相手の商売を営んでいます。

集客力が低下するなか，商店会では，行政や蔵の会などと共に，地元経済を活性化するにはどうしたらいいのかを考え，昭和60年に通産省の「コミュニティーマート構想[1]」にエントリーしました。その中で商店会は，①「町づくり規範」をつくること，②個店整備事業，③全体施設整備事業，④核施設整備事業の4つの事業を目標に掲げました。昭和62年には商店会員を中心とした街並み委員会が設立され，翌63年には町づくり規範が作成されました。こうして一番街商店会は，行政・地元住民などと一体となり，商業の活性化によるまちなみの保存を始めたのです。それぞれの事業については次のとおりです。

①町づくり規範

蔵造りの街並を保存するための申し合わせ事項で，67箇条からなるものです。例えば，蔵造り建物の高さを 11m以下にすることや，建物に無彩色を使うことなどを取り決めています。

②個店整備事業

町づくり規範に沿って，各店舗を修復・修理することです。これに際しては，街並み委員会が協議をおこないます。

③全体施設整備事業

町全体としておこなう事業のことで，主に次の2つが実施されました。

i）電線地中化

それまで地上にあった電線，電柱を全て地中化することにより，景観の向上を図りました。工事は平成3年1月より19ヶ月に及び，沿道の商店ではその影響で売上がおちてしまい，商店会から脱退するケースもありました。しかし平成4年の工事完了後には，以前にも増して観光客が多く押し寄せるようになり，商店会がより一層蔵のまちとしての色を強めました。

ii）ポケットパーク

地域のふれあい，交流を推進するための小さな公園のことです。一番街の真中に位置するあさひ銀行前。もう一つは北の方に位置する札の辻前に2箇所設置されました。

④核施設整備事業

文化的かつ集客能力のある，一番街の核となる施設を整備する事業です。平成13・14年度に，川越祭りにまつわる色々な物品を展示した「お祭り会館」をつくっています。

---

[1] コミュニティーマート構想：中小企業庁のモデル事業，商店街を単なる買い物する場所から，地域住民が生活上必要な多用なニーズを満たすために集う「暮らしの広場」へと，その機能向上させようとするもの。

d． 行政

蔵造りのまちなみ保存運動が活発になる以前，川越市役所では駅前再開発の指向が強く，駅から離れた一番街商店会のまちなみ保存には力を入れていませんでした。行政側には，一番街を都市計画道路として幅員 20mに拡幅する計画があり，それを実行しようとする行政と住民との間にたびたび対立も起きました。しかし蔵の会，一番街商店会などを中心に蔵のまち保存の気運が非常に高まり，それと同時に，蔵保存に対する熱意を持つ市職員などが蔵を守るために動きだしました。その結果，都市計画道路の幅員変更（20m から 11m）が決定され，一番街は元の姿をとどめることができたのです。さらに行政は，電線地中化，ポケットパークの設置を地元と共に進め，都市景観条例[1]の制定，伝統的建造物群保存地の指定（図 5-1-3）などを行い，民間団体では難しい長期的視野の政策に対して柔軟に対応しています。

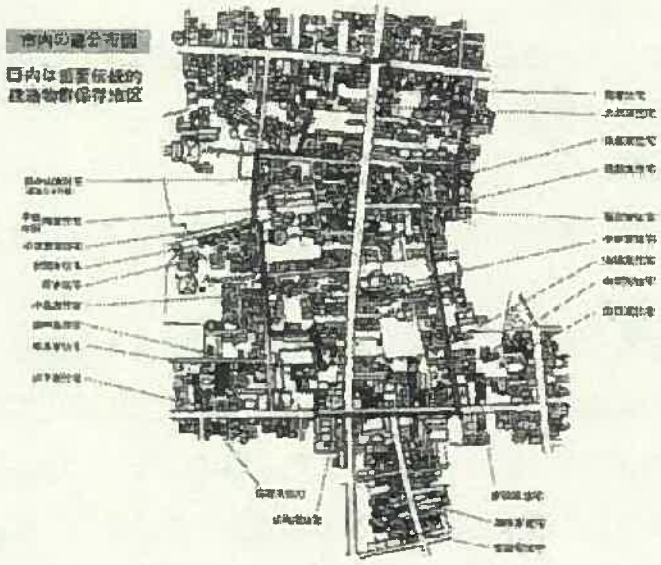


図 5-1-3 伝統的建造物群保存地区図

[1] 都市景観条例：市景観の形成に関し必要な事項を定めることにより，川越の優れた都市景観の保全及び創造を図り，もって魅力あふれる快適な都市の実現に寄与することを目的として，平成元年に施行されました。

図5-1-3 助成制度と補助金

行　　為	補助対象経費	補助率	上限額
修　　理	伝統的建造物の外観の復原，現状維持，構造補強に要する経費	4/5以内	1,600万円
修景基準に基づく行為	伝統的建造物以外の外観の整備に要する経費	3/5以内	600万円
景観基準に基づく行為	道路,公園,広場等の公共の場所より容易に一望できる伝統的建造物以外の建物の外観の整備に要する費用	2/5以内	300万円
復　　旧	災害等により損壊した伝統的建造物および環境物件を現状に復する行為に要する経費のうち，市長が認めたもの	市長が別に定める	
管　　理	建築物等に火災報知設備を設置する行為その他建築物の維持管理等のための行為に要する経費のうち，市長が認めたもの		

e．研究対象地区との比較

川越の蔵は，当時の普通家屋の十倍もの建造費がかかったと言われており，川越商人の豊富な財力を反映した重厚な建造物になっていると同時に，川越大火などの経験により防災性を重視した安定感のある豪快な造りにもなっています。大山街道と比較した場合，蔵の質や規模，また現在保存されている蔵の数に大きな違いがあり，ハード面でのまちづくりにおいては比較することは難しいですが，次に挙げるように，大山街道にも活用できると思われることがたくさんあります。

・住民活動から始まった蔵保存の運動など，住民がまちづくりにおける合意形成の場を自主的に形成し運営している。
・「川越いも」のような全国的に有名な特産品を作り，ネームバリュウを上げている。
・「なぜ，人がこない」「なぜ，物が売れない」などの問題意識を持ち続けている。
・商店では，時代やまちなみに合わせた商売に切り替えていく臨機応変な対応をとっている。（お話を伺った豆腐屋では，以前は八百屋の商いをしていた）
・電線地中化により歩行空間が確保された。
・川越では関東３大まつりの一つ「川越祭」が催されていて，祭が地元住民のコミュニケーションの場になり，また歴史を考える場にもなっている。（高津区民祭を今以上に大山街道を意識したイベントにしていく）

これらのように，川越のまちづくりから学ぶべき事柄はたくさんありますが，なによりも，まちづくりでの商店街の熱意，市役所職員と住民との仕事を超えた付き合いなど，蔵保存にかける一人一人のたゆまぬ努力，熱意こそが，我々がみならうべきことだと言えるでしょう。

2．伊勢原市の取り組み

（1）調査対象とした理由

神奈川県伊勢原市は，大山街道を通った多くの人々が目的地とした，大山がある市です。大山街道に一つの意味づけを与える大山信仰に対して，歴史資源が豊富にあることから，それをどのように活用してまちづくりを進めているのかを参考にするため，調査しました。

（2）伊勢原市の概要

神奈川県のほぼ中央に位置する伊勢原市は，東京から約 50km，車で東名高速を使うと 30 分の距離にある，人口約 10 万人の首都圏の近郊都市です。総面積 55.52k ㎡のうち山林原野が約三分の一を占め，丹沢大山国定公園の一角に位置するシンボル「大山」を頂点に，東部には清流の流れる豊かな平野部が広がり，温暖な気候と自然環境に恵まれています。

図 5-2-1　伊勢原市位置図（伊勢原市ホームページより）

（3）伊勢原市のまちづくり

伊勢原市では，21 世紀の初年である平成 13 年に市制施行 30 周年を迎えるにあたって，21 世紀初頭を展望しながら，当面，重点的に取り組む施策の方向を 11 本のプロジェクトにまとめ，平成 10 年3月に「伊勢原まちづくりビジョン」を策定しました。これは，7つの政策分野別重点プロジェクトと4つの地域別重点プロジェクトから構成されています。

伊勢原市域を「やま・おか・まち・さと」の4つの地域に区分し，それぞれの地域の特

性等に対応する象徴的なプロジェクトを「地域別重点プロジェクト」と名づけています。このうち，大山を指す「やま」重点プロジェクトに，<大山観光街道づくり構想>が掲げられています。

図 5-2-2　大山観光街道づくり構想（伊勢原市ホームページより）

（4）大山観光街道づくり構想とは

a．道路交通基盤の改善と新たな観光振興

大山に向かう県道大山坂戸線は，休日になると大渋滞し，救急車すら満足に通ることができません。このため，県道に並行して大山新道（バイパス）の整備を進めています。

また，参詣者が集中するお正月には，駐車場が不足します。道路交通条件の改善により，来訪者が増加することを見越して，来訪者駐車場の機能改善を課題にしています。ちょうど市立駐車場の隅に温泉を掘り終えたところ

図 5-2-3　大山名物の豆腐料理店

だそうです。ゆくゆくはここに温泉入浴施設をつくり，新たな観光振興の基盤にすえたいと考えています。これには，なるべく山裾の下の方で車を降りて，通りにある茶屋などで休息したり，みやげ店などを巡りながら参詣してもらいたい，という行政側と商店側の共通した意図があります。

b．美しい山の緑と歴史的情緒豊かな街道づくり

大山のもうひとつの魅力は，豊かな山の緑です。大山とその並びにある日向の一帯は，県の天然記念物にも指定されているもみの原生林が広がり，手軽なハイキングコースとして人々に親しまれています。

県道沿いの民家では，木々を植栽しており，春先には色とりどりの花が咲いて，とても綺麗だと評判になりました。これを広げて整備し，街道を花で彩る大山“花の街道づくり”を目指しています。

また，街並み景観等の形成指針の設定や主要な観光スポットにおける施設の改善もプロジェクトの項目に挙げられています。

（5）地域と行政のパートナーシップ

大山は，神奈川県内でも箱根・鎌倉に続き，歴史的資源のある観光地として挙げられるでしょう。箱根や鎌倉は，全国的に観光客を集めているのに対し，大山への参詣・登山客は，主に関東各地から来るという違いがあります。

しかし，近年は宿泊者の減少により，長く続いた宿が閉店を余儀なくされるなど，憂慮される状況になり，新しい魅力作りが必要ではないかとの声が住民よりあがってきました。

そこで，市では，産能大学情報科学研究所に依頼し，昭和 62 年に「大山街道まちなみ整備計画策定調査」を行い，“街道は歴史が活きづく野外の博物館である”として「大山街道博物館構想」を提案しました。

そのなかで，地域住民を主体にまちづくり推進と実現をはかるため，まちづくりの協議・調整の場（「大山街道博物館構想推進研究会」）を設置し，行政機関との役割分担や関係者間の合意形成を前提に計画策定を進めました。

ケーススタディーとして，当時架け換え計画のあった加寿美橋と阿夫利橋について，橋のデザインや周辺の施設整備について検討しました。しかし，実設計がすでに終了した段階で，提案を受け入れられる範囲に制約があったため，結果として表面のデザインは変更

になりましたが，依然ごつごつした印象が残る橋になったとのことです。

地域住民にしてみれば，希望が叶えられなかったという思いは残り，行政側にも相互不信感がぬぐえなかったとのことです。

その後市長が交代したことにより，前市長時代の「大山街道博物館構想」は引き継がれませんでした。しかし，観光資源はあるという共通認識から，愛宕橋のたもとの枯れた滝に水を通す橋詰スポット整備から事業が再スタートしました。

（６）研究対象地域との比較

お話を伺った行政の担当者の方によれば，「大山の山並みそのものが，シンボルになるので，街並みというと観光資源のほうへ話が置き換わってしまう」と言われるように，伊勢原市には，誰にでも分かりやすい象徴＝大山があります。ひきかえ，川崎の大山街道沿いには目立ったシンボルは見当たりません。

また大山には，まだ陽の目を見ていない歴史的資源があることが予想される点も，川崎の大山街道沿いとの大きな違いです。

江戸時代に発展した大山信仰を支えた御師と呼ばれる宗教者は，彼らの組織や活動を含め，宗教史や民俗史を研究する上で重要なキーワードです。御師は大山山麓に居住し，参詣者のための宿を提供するとともに，祈祷を行い，時には参詣者の案内役もつとめました。江戸時代から続く大山山麓の多くの宿には，彼らの活動の記録や宿泊者名簿，当時の御札など，史料が残っているものと考えられます。住民同士が協力してそれぞれの宿から史料を提供しあい，“宝”として公開すれば，新たな観光振興の道が開く可能性があります。

大山山麓では観光地として，川崎の大山街道沿いでは商店街として，いずれもその顧客減少に悩みながら，地域住民同士の連携がとれていないところが共通しています。

大山山麓では，人口変動が殆どないため，おのおのの住民が数代数百年の先祖のつきあいを引きずっています。そのため，何か決めるべき問題が持ち上がると，過去の経緯にとらわれて，意見を一つにまとめるのを妨げているのです。

一方，川崎の大山街道沿いでは，住宅地としての開発が加速しており，今もマンション建設が次々に進んでいます。今後様々な住民層が居住することが予想されるため，古くから住んでいる人々と，新しく住む人々との間に，住民同士の利害関係が一致するかどうかを見極める必要がありそうです。

コラム　　大山の歴史について　～大山講の誕生～

大山にある代表的な宗教施設は，大山阿不利神社と大山寺および日向薬師です。そのうち大山阿不利神社と大山寺は密接な関係にあります。

大山阿不利神社の創建は紀元前 97 年と伝えられます。10 世紀初めに成立した『延喜式神名帳』に「阿不利神社」の名がみえるので，少なくとも平安時代初めには存在していた，由緒のある神社であることが分かります。現在は山頂に本殿（本社）があり，中腹に下社があります。

大山寺は，天宝勝宝 7（755）年，奈良東大寺の別当である良弁僧正の開創といわれます。鎌倉時代の歴史書である『吾妻鏡』によると，鎌倉幕府の初代将軍・源頼朝の庇護をうけています。また，曽我兄弟の仇討ちで知られる曽我祐成が本尊の不動明王に願をかけ，その功徳により仇討ちが成功したとも伝えられます。

現在の本尊は 13 世紀後半に願行上人によって鋳造された鉄造不動明王坐像・二童子像で，国の重要文化財に指定されています。その後も足利氏，後北条氏など時の権力者の庇護を受けて，神仏混合の形態で繁栄しました。

江戸時代になると，徳川家康の行った寺院統制によって，妻帯者の僧や修験者たちは下山を命じられました。これらの宗教者が山麓に居住して御師の活動を行ったことで，広く庶民にとって身近な信仰の地として，大山が発展する基礎を築いたのです。

御師の活動は，参詣者のための宿を提供するとともに，祈祷を行ったり，時には参詣の案内もしました。また，各地を歩いて参詣のための「講」づくりに努め，「大山講」が誕生したのです。

図 5-2-4　信仰を集めた大山寺

3．その他の都市

（1）選定理由

現地でヒアリングした前出の川越，伊勢原の２都市に加えて，次の条件で参考事例都市を選定しました。

① 歴史を生かしたまちづくりを進めている。
② 歴史的建造物を利用したまちづくりを進めている。
③ 歴史を意識したまちなみ・街路の整備を行っている。
④ 商店街によるまちづくり

これらのうち，①の条件にまずあてはまり，かつ②～④のいずれかに当てはまる都市を選定し，参考事例としました。それがこれから紹介する会津若松市，飯田市，伊勢市，小樽市の４つの事例です。

（2）会津若松市（福島県西部，315ｋ㎡，人口約 11 万 8000 人）

会津若松市の中心市街地について参考事例の一つとしました。会津若松市は会津盆地の東南にあり，会津地方の行政・経済・文化の中核都市です。江戸時代は会津松平藩の城下町として栄え、現在も筋違いの道路や蔵造りのまちなみなどに往時の面影を残しています。

a. ハード面のまちづくり

会津若松市の中心市街地では，多く残るまちの歴史的資源を生かして，歴史を生かしたまちづくりを行っています。

(a) まちなみ整備

会津若松市では，歴史的景観指定建造物を指定し，外観の修景や断熱，防水化工事に助成を行っています。また，「美しい会津若松景観賞」を設けており，美しい景観の形成に寄与している建築物等の所有者（設計者、施工者）やより良い景観づくりに取り組んでいる団体、個人の方々を毎年表彰しています。（図 5-3-1）

図 5-3-1　歴史的な建築物を改修し，お店として利用している例

また，景観協定地区に新しく建てる建築物にも，助成を行っており，良好なまちなみ形成を図っています。

古い建物の模倣にならず，モダンなデザインで周囲の古いまちなみに調和している例。

図 5-3-2　蕎麦屋

（b）商店街整備

会津若松市観光課ではまちなかの活性化のためにさまざまな事業に取り組んでいる団体や地域を「まちなか観光推進団体」として認定し支援しています。現在、「七日町通りまちなみ協議会」「野口英世青春通り協議会」「いにしえ夢街道協議会」の３団体が認定を受けています。そのなかの一つ，「野口英世青春通り」は，野口英世をキーワードとして商店街整備を進めています。（図 5-3-3）

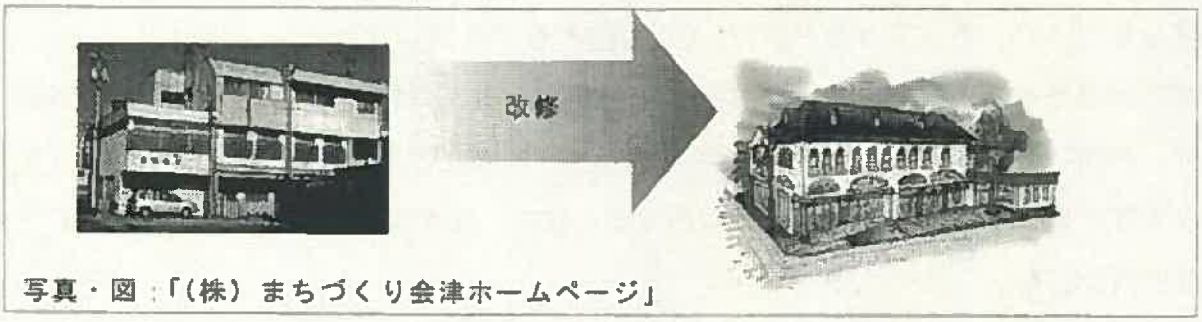
一方通行にすることで，歩道を両側に設け，歩道と車道を一体で舗装しています。歩道と車道の間に段差は設けていません。

「野口英世青春通り」のカフェを設け，拠点の一つとしています。

連続した古いまちなみを生かしたまちなみを形成しています。中は改造して喫茶店や飲食店になっています。

図 5-3-3　野口英世青春通り

（c）リノベーション・拠点づくり



写真・図：「(株) まちづくり会津ホームページ」

図 5-3-4　医院の改修

TMO[1]である「株式会社　まちづくり会津」では，商店街のなかの拠点整備として既存の医院を改修し，テナントビルをまち中に整備中です。周辺に回遊性を持たせた路地整備も計画しています。

b. ソフト面のまちづくり

会津若松市では，平成 10 年に全国初の TMO である「まちづくり会津」を設立し，中心市街地を活性化するため，次のような活動を行ってきました。

・スタンプ「ためらんしょ」

市内の加盟店で 100 円お買い上げ毎にスタンプ 1 枚もらえ，1 冊 500 円として各加盟店でのお買い物や指定の金融機関での預金もできるシステムになっています。

・「アネッサクラブ」

任意団体である市内に９つあるまちなみ協議会の一つで，商店主だけでなく，住民も参加しています。「アネッサ」とは，「あねさま」（おねえさま）の意味で，おかみさんたちが結成した会です。（図 5-3-5）

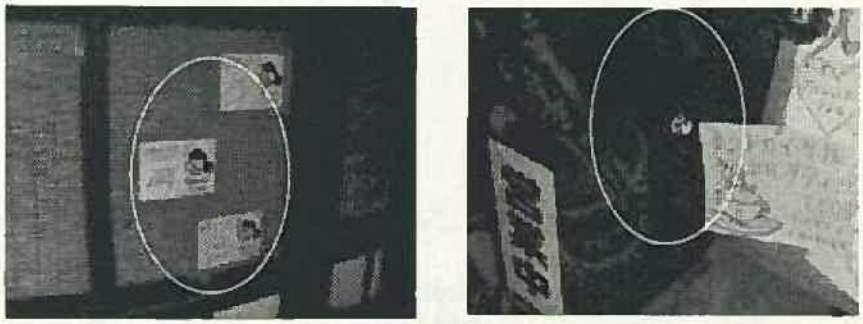


図 5-3-5 アネッサクラブの活動

[1] TMO：Town Management Organization の略。平成 10 年に制定された「中心市街地活性化法」で，中心市街地における商業集積の一体的かつ計画的なタウン・マネージメント（まちの運営管理）をするとともに、様々な主体が参加するまちの運営を横断的・総合的に調整しプロデュースする組織と位置付けられています。（国土交通省ホームページから）

加盟店の店先には，「アネッサクラブ」のマークがいたるところに見られます。「アネッサクラブ」のステッカーには，「４つのどうぞ運動」である，「お茶をどうぞ」「お荷物をどうぞ（おあずかりします）」「いすをどうぞ（お休み下さい）」「トイレをどうぞ（お使い下さい）」と，「のきさきギャラリー」などがあります。このマークが親しみやすい店づくりに貢献しているようです。また，会の趣旨としてアネッサ憲章[1]が作成されました。

会津若松市では，「美しい会津若松景観賞」を設けており，美しい景観の形成に寄与している建築物等の所有者（設計者、施工者）やより良い景観づくりに取り組んでいる団体、個人の方々を表彰しています。この「アネッサクラブ」は，平成１２年度に「そだてる」部門で表彰を受けています。

c．大山街道との比較

大山街道と似ているところは，野口英世青春通りのように，昔はまちの中心だった通りが，時代とともに中心を取られてしまったところ，大町通りは歩道が無く，セットバック[2]もできない状況であるところで，異なるところは，会津若松市の中心部は大規模開発も少なく，歴史的建築資源が多く残っているところ，全国初のTMO「アネッサクラブ」など，商店街の方々が全国でも新しい組織づくりをしているところです。商店街の方々が危機感を強く感じ，非常に結束固く活動されている様子が見てとれます。

大山街道も野口英世青春通りのように，セットバックせずに歩道をつけるとしたら，一方通行にするしかないのかもしれませんが，交通量から見てそれは現実的とはいえないようです。また，歴史的資源の量も異なるため，同様な市からの助成手法が有効であるとは考えにくい部分があります。

---

[1] アネッサ憲章：
私たちアネッサクラブは軒のつらなる店先に四季折々，会津の歴史や文化に彩られた「のきさきギャラリー」を展開します。
一、そのギャラリーを通してふれあいのある楽しく、居心地のいいまちづくりを目指します。
一、私たちは，会津のまちが日本の「ふる里」であり続けたいと願います。
（お店ばたけ ISHIKAWA リンク集から）

[2] セットバック：set back:後ろにさげること。（Exceed 英和辞典：三省堂ホームページより）
ここでは特に建築物を後退させて建てることを指します。定められた線に従ってセットバックして建築を建てれば，建物のそろったまちなみになります。また，狭い道路を拡幅する際にも，建物のセットバックが必要となります。

ただ，普通の建築物を改修してまちの拠点にする手法，「アネッサクラブ」のようにステッカーを貼るというだけのお金のかからない手法などは参考にできると考えられますし，周辺商店街との広域的な協力体制は溝口大通り商店街・二子商店街でも考慮する必要があります。

（３）長野県飯田市（長野県南部，面積 325ｋ㎡，人口 10 万 7000 人）

飯田市は長野県の最南部に位置し，天竜川流域の自然豊かな都市です。江戸時代初期、藩主・脇坂氏が「小京都」と称される美しい街並みを形成した歴史があります。飯田市は「りんご並木」[1]のまちづくりで有名ですが，今回はそのりんご並木を含めた中心市街地のまちづくりについて参考事例とします。

a. ハード面のまちづくり

長野県飯田市では，1947 年中心市街で発生した大火事で生き残った江戸時代の土蔵を市が買い取って再生し，「三連蔵」という市民交流施設を整備しました。その際，広場とレストランを増築しました。９９年に整備したりんご並木とともに，まちづくりのシンボルになることが期待されています。この三連蔵はりんご並木のほぼ中央に位置しています。

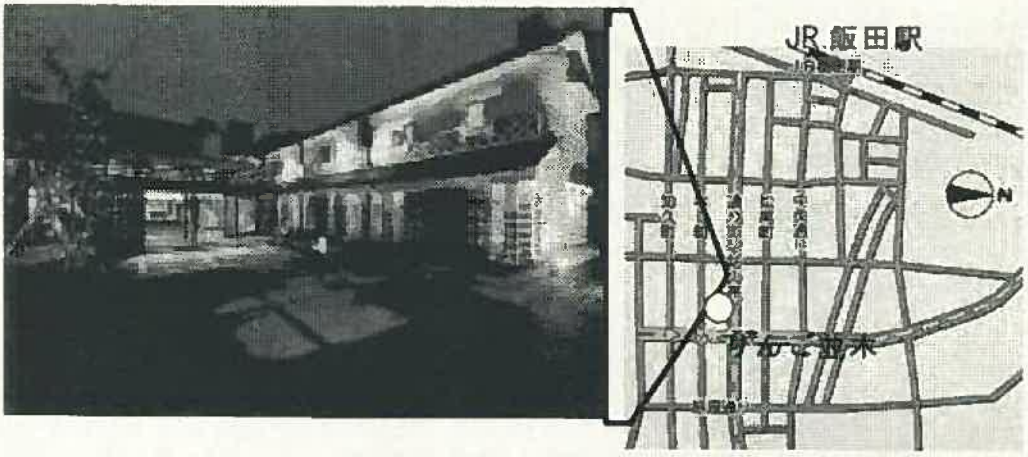


図 5-3-6　三連蔵の外観と位置

三連蔵写真：飯田まちづくりカンパニーホームページ

地図：飯田市ホームページ

---

[1] りんご並木：飯田のりんご並木は、かつての「飯田の大火」の復興過程で当時の飯田市立飯田東中学校の生徒達の提案により生まれ、今日まで営々と町のシンボルとして；彼らの手で守られ、育てられてきました。まちづくりのモデル事例として全国的に有名です。

運営は長野県初のTMOである，飯田まちづくりカンパニーによって行われています。
三連蔵は，次のような構成で成り立っています。

一番蔵：１階　市民フリーマーケット「びっくら市」
　　２階　りんご並木資料室　（地元の中学生のまとめた資料展示）
二番蔵：１階　市民ギャラリー「蔵」
　　２階　レンタルスペース（集会場）
三番蔵　１階　日本酒ダイニングスペース「三番蔵」
　　２階　レンタルスペース（集会場）

b．ソフト面のまちづくり

三連蔵の市民ギャラリー，集会場は無料で利用できるようにしました。集会場はサークルやNPOの集会，まちの情報拠点として利用します。将来はまちづくりの情報基地とする予定です。

c．大山街道との比較

まちの中に残っている蔵を改修して上手く拠点として利用している例です。飯田市は，りんご並木というまちづくりのシンボルがあり，それによってまちづくりの素地がすでに育っていたという背景もあります。蔵はりんご並木と相乗効果でまちづくりをもりあげていく材料になるだろうと思います。無料集会場やギャラリーはまちづくりの拠点として重要であることから，大山街道もふるさと館や糀ホールなどを同様にうまく利用できないものでしょうか。

（４）伊勢市（三重県南部，面積約179ｋ㎡，人口約10万2000人）

三重県の南部に位置し、古くから伊勢神宮の鳥居前町として発展しました。伊勢志摩国立公園の玄関口にあたり、歴史・文化遺産や美しい自然に恵まれ、年間約600万人の観光客が訪れる歴史ある都市です。その伊勢神宮の内宮の参道であるおはらい町を今回参考事例にしました。

a．ハード面のまちづくり

伊勢神宮内宮へ続く道沿いに，おはらい町は線状に内宮へとのびており，その一角に面的整備としてのおかげ横丁があります。

(a) おはらい町の整備

和菓子の老舗である赤福の浜田社長を中心に、さびれたまちへの危機感の中で、73年から新しいまちづくりが始まりました。既存の建築物の保存再生のみならず、市に「伊勢市まちなみ保全事業基金」をつくり、それによっておはらい町通りに伊勢らしい建物を新しく造ろうと考え，住宅や店舗の建て替え、増築などへの低利の資金融資が実現した結果、おはらい町ではうどん屋や食堂だけでなく、郵便局や銀行までも伊勢の伝統的な木造建築に生まれ変わりました。次いで市と県は町並み保全事業として、おはらい町通りの電線の地中埋設や道路の石畳化を完成させました。

図 5-3-7　おはらい町のまちなみ

(b) おかげ横丁

おかげ横丁は、おはらい町の中心Ｓにあり，まちづくりの核となっています。おはらい町は県や市の協力を受けましたが、おかげ横丁は赤福の社長がプロデューサーを務め、陣頭指揮をとって出来上がりました。現在おかげ横丁の運営は、赤福関連会社の有限会社伊勢福が行っています。 横丁は約２５００坪で，案内所や飲食店、展示施設などの 19 棟 29 店舗の伝統的な木造建築が建ち並んでいます。路地には囲いもなく、通り抜けできるようになっているので，日常的な生活の路としても利用され、まちに広がりをもたらしています。 おかげ横丁は、伊勢の伝統的民家の特徴である切り妻・妻入りをはじめとする伊勢路の建築文化を生かしてデザインされており，保存・再生のまちづくりというより，テーマパークを思い浮かべます。

図 5-3-8　おかげ横町入り口

b. ソフト面のまちづくり

おかげ横丁にのれんを出している店では、扱う商品の設定は勿論のこと、店主の年齢や性格、出身地、家族構成、時代背景など、背景を設定した上で店舗の検討をしたそうです。この地方にしかない伊勢たくあんや伊勢の魚干物、伊勢うどん、伊勢肉、伊勢神宮にちなんで、神殿神祭具の店もあります。出店で買ったものを食べ歩きしている人が多く見られます。はんぺんや焼き芋を食べながら、店先を除くというまちあるきの楽しみがあり、これは川越や横浜中華街にも通じるところがあります。

図 5-3-9　ぶらぶら歩きを楽しむ人達

おかげ横丁の拠点は「おかげ座」(図 5-3-10) です。おかげ座は伊勢参りの様子を映像で紹介する部分と、江戸期の「おかげ参り」の参拝者とそれを迎える伊勢の町並みを２分の１スケールの模型で見せる展示空間とで構成されています。横丁唯一の有料施設で、映像や模型は、神宮博物館に保存されている文政 13 年のおかげ群参の絵図と資料や、昔を知る有識者など多くの方々の指導に基づいて当時を再現したものとなっています。

図 5-3-10 おかげ座

図 5-3-11 おかげ横町のシンボル・招き猫

c.　大山街道との比較

おかげ横町が核となっておはらい町全体が活気を帯びています。このまちづくりは赤福の社長が強力な資金力とリーダーシップをもって、ひっぱっていったものです。一人の強力なリーダーの力がここまでまちを変えたというこのまちでの事実が、まさ

にまちづくりにはひとづくりが欠かせないことを証明しているいい例だといえます。ソフト面では，赤福に加えて，自ら名物を生み出す努力も行いました。ハードとソフトが結びついた「歩いて楽しいまちづくり」が実現したわけです。ただ，現在の大山街道にここまでのリーダーと資金力があるでしょうか。ここはよくまちづくりの成功例として紹介されていますが，これはあくまで特殊解であり，また，大山街道は立地的に言っても，観光地型でテーマパーク的商店街まちづくりが向いている場所ではありません。現在の状況から見ても，伊勢のように商店街に特化していくのではなく，どちらかといえば商住共存のまちづくりを必要としています。ただ，まちづくりのエッセンス的なものは真似する価値があると思います。

（５）小樽市（北海道西部，面積 243.13k ㎡，人口約 15 万人）

小樽は、アイヌ語でオタルナイ（「砂浜の中の川」の意）と呼ばれます。明治時代に北海道開拓の最も重要な港湾として位置付けられ、商業港湾都市として発展しました。明治 22 年に完成した埋立地に石造倉庫が立ち並びました。明治中期から大正後期にかけては、中央の金融機関が進出し、通称「北のウォール街」と呼ばれた銀行街は、北海道金融界の中心地として重要な役割を果たしました。

今日、明治時代～昭和初期に建てられた建築物は、小樽市内に数多く現存しており、市と教育委員会では、このうち 66 棟（平成 13 年 3 月現在）を「小樽市指定歴史建造物」に指定し、その保全に努めています。

a．ハード面のまちづくり

小樽市では、市民や事業者、行政が相互に協力して、小樽らしい魅力あるまちづくりをすすめるために、「小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観条例」（平成 4 年 4 月施行）を定めました。この条例により、市内全域を対象に、建築行為等を行う場合には事前届出制が設けられました。また、市民や事業者が、まちの景観づくりをすすめるために行う建築行為や活動に対して助成及び融資のあっせんを行い、景観の修景につとめています。

また，小樽らしい都市景観を形成するために特に重要であり、市民の共有財産としてシンボル的な地区を「特別景観形成地区」として指定し，その地区に応じた計画や基準を定めています。（図 5-3-12，図 5-3-13）

図 5-3-12　雪の小樽運河

図 5-3-13　かつての銀行建築物が並び「北のウォール街」と呼ばれ，小樽駅からのびる大通り

b．ソフト面のまちづくり

小樽市には、いくつものエリアに観光名所がありますが、そのうち中心となっているエリアが、小樽のシンボルにもなっている小樽運河とその周辺です。

小樽駅から直線に伸びる駅前通りと小樽運河の交差するT字路の角に「運河プラザ」という観光案内所があり、ちょっとした休憩所代わりにもなっています。棟続きに小樽市博物館があり、郷土の歴史に触れることができます。

図 5-3-14　運河プラザ

左右対称に展のびる煉瓦造りの小樽倉庫は、現在運河プラザ事務所や小樽博物館として使用されています。寄せ棟の瓦屋根に鯱をのせた和洋折衷の優美なデザインで、歴史的建造物にも指定されています。

また小樽運河を会場にして行われたイベント「小樽雪あかりの路」は、今年2月で第4回を重ねました。運河の水面に浮き玉キャンドルを浮かべ、倉庫群からの窓明かりと散策路を照らすキャンドルロードが、ノスタルジックな街並みをいっそう効果的に演出しています。また、第13回小樽市都市景観賞を受賞しています。

これに付随してフォトコンテストや「雪」と「あかり」のコンテストが開催され、市民と観光客が一体となってイベントを盛り上げ、楽しめる仕掛けがちりばめられています。

図 5-3-15　雪あかりの路における小樽運河の様子

（小樽市ホームページより）

また、「わが街・小樽」をテーマにした小樽観光情報誌「きらっと小樽」が平成13年6月に創刊されました。こうした様々な企画は、小樽市観光振興室で積極的に行われています。

そのほか、市民による魅力あるまちづくりを進めるために、市民や事業者が強力しあってつくる「まちづくり景観協議会」「まちづくり景観提案」「まちづくえい景観協定」などの制度を定め、市ではそれらの活動への技術的援助や助成を行っています。

c．研究対象地域と比較して

「運河プラザ」のある港に面したエリアは、にしん漁で開け、北海道経済の中心地として明治・大正期に栄えました。歴史の長さだけをとれば、江戸初期に開けて江戸時代中期～後期にかけて繁栄した大山街道のほうが、ゆかりはあるでしょう。また、現在の交通機関との関係でみると、大山街道へは最寄りの東急田園都市線溝口・JR 南武線武蔵溝口駅から徒歩５～６分で入れる近い距離にあるのにくらべて、最寄の JR 小樽駅から、中心観光地は、約 12～15 分とやや離れています。しかし、それでも観光産業が成立している理由について考えてみましょう。

- 中心観光地のそばにホテルがあり、遠方からの集客力がある。
- 点在する観光地を結ぶ「おたる散策バス」が朝９時半～18 時まで 15 分おきに運行している。
- 石原裕次郎記念館や北一硝子・ヴェネツィア美術館など、中規模滞在型の観光施設が複数ある。
- 歴史的建造物が多数あり、建物の保存・保全がすすめられている。

図 5-3-16
おたる散策バスの停留所

以上のように、小樽市の事例は、観光に立脚した歴史を生かしたまちづくりの代表例でしょう。

ただし、市がまちづくり景観条例を制定する以前に観光資源が豊富にあったという点は、次々に歴史的建築物が失われていく大山街道沿いと大きく異なります。

また、景観保全だけでなく、夜の運河をライトアップするなど、より街並みを美しくみせる工夫がなされています。また、イベントも盛んです。

大山街道ぞいにおいても、高津区民祭の主要な会場となって賑わい、また東にぬけると多摩川があり、夏には花火大会が催されているなど、市民が集う機会があります。

こうした機会をとらえて、まちづくりの方向性を示す催しを考えるときに、小樽市のまちづくりは参考になると思います。

むろん、こうした大山街道沿いのにぎわいが一過性のもので良いのかどうか、地域に判断を委ねる必要はあるでしょう。

小樽市のまちづくり景観条例にあるように、都市景観形成の主役は、市民なのですから。

～参考～

小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観条例（平成４年３月31日制定、平成12年３月27日条例第44号最近改）　前文より

小樽には、先人の豊かな感性とたゆみない努力によって築き上げられた独自の文化や歴史、港湾都市としての魅力ある雰囲気などの財産がある。これらは、天与の恵まれた海・山・坂とともに、変化に富んだ四季の移り変わりの中で独自の都市景観を形成している。

次代を担う子供達が郷土を愛し、未来に夢と誇りを持てるように、小樽の個性と文化を育て、更に好ましい都市景観を後世に残し、潤いと活力あるまちづくりをすすめることが、いま、わたくしたちに求められている。

都市景観は、市民一人ひとりの生活意識や価値観が背景となって形成され、それは市民文化を反映した総合的な都市としての印象であり、姿である。

都市景観形成の主役は、わたくしたち市民である。

（下線は筆者が付記した。）

4．他都市と研究対象地域との比較

ここまで見てきた参考事例と研究対象地域のまちづくりの比較を表 5-4-1 で行いました。これを見ると比較事例としてみてきた所，特に川越，会津若松，伊勢，小樽などは行政が環境を保全するための条例や助成を整備して，民間活力の利用を図るための努力をしています。また，住民組織がまちづくりを主導していく上で，ユニークな組織を立ち上げたり，TMO の設立を行っています。研究対象地域では，この表から見ても他都市に比べて住民主導の活動のメニューが少なく，住民による組織だった活動があまり活発ではないことが分かります。

表 5-4-1　大山街道と他地区の比較表

	主体	まちなみ	拠点づくり	道路	商店街	団体	まちづくり条例等
大山街道	住民	既存に歴史的な雰囲気が失われつつある。	・雑ホール		・スタンプラリー	・高津青年会議→名民祭	
	行政		・ふるさと館				
川越	住民	蔵造りの蔵が残っている。			・町並み委員会	・蔵の会 ・十ヶ町会 ・川越祭り	・町づくり補助
	行政	・伝統的建造物群保存地区指定 ・都市景観条例 ・観光市街地形成事業 ・歴舗事業 ・文化財指定 ・かわごえ都市景観賞等	・お祭り会館 ・蔵造り資料館 ・時の鐘	・都市計画変更（20m→11m）			・蔵造り…職人の伝統きたいせつにし，半町で文化の香りたかいまちにします
伊勢原	住民	・山岳の民家では香ばしいに花を咲かせている			・登山口に立ち土産店		
	行政	大山観光総合づくり構想 大山「元の宿造づくり」	・橋・道路の整備 ・車乗入禁止町づくり（計画）	休日の渋滞解消のための大山新道（バイパス）の整備中			
会津若松	住民	・連続した古いまちなみを生かしたまちなみを形成。	・「野口英世青春通り」（史跡の一つ）のカフェ。 ・古い建物の内部を改修した喫茶店や飲食店。 ・倉庫の長屋をリノベーションしたテナントビル。		・スタンプ「ためらんしょ」	・TMO「まちづくり会社」を設立。 ・「アネッサクラブ」	アネッサ事業
	行政	・歴史的景観地区・建造物の指定。 ・「美しい会津若松景観賞」 ・景観指定地区に新しく建てる建造物に助成。		・一方通行にすることで，歩道を両側に設け，歩道と車道を一体で整備。	・市観光課で「まちなか観光推進団体」を設定，支援。		
能登	住民				TMO「能登まちづくりカンパニー」による「三連凧」の復活		
	行政		・「三連凧」という市民交流広場の整備。 ・りんご並木の復活				
伊勢	住民		・おかげ横丁 ・「おかげ座」		おかげ横丁		
	行政	「伊勢市まちなみ保全事業基金」		おはらい町通りの保存地区の地中埋設・道路の石畳化。			
小樽	住民	事前届出制により美しいまちなみを維持・保存	・石原裕次郎記念館・北一硝子・ヴェネツィア美術館などの観光施設・土産店		イベント「小樽雪あかりの路」		
	行政	・歴史的安定的建造物の指定と保全 ・小樽市都市景観賞 ・地区計画形成地区の指定	・小樽運河周辺の観光案内所「運河プラザ」		おたる散策バスの運行		小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり条例等

第６章　地元住民の意識と願い

１．　調査のプロセス

私たちには、現場に入って地元住民の実際の声を聞きながらこの政策課題を進めて行きたいという大きな方向性がありました。そのために次の２つの方法をとりました。（図 6-1-1）

（１）ヒアリング

目的：住民の方の思いを直接聞く。問題点などを洗い出す。

まちづくりについて、直接地元の方々の願いや考えをお聞きするためにヒアリングを行いました。直接やりとりをすることによって、住民の方がどのような思いを持っているのかを実感することができました。

（２）意見交換会

目的：ヒアリング結果の報告、住民同士で話し合いをすることによって更なる意見を引き出す、話し合いを通してお互いの思いを共有する。

ヒアリングのまとめの結果を持って、「意見交換会」の場を設け、住民の方々の更なる思いを聞き、話し合いを通してお互いの思いを共有してもらいました。今後は、報告書作成後、地元に報告書の内容を報告する会を開くことを予定しています。

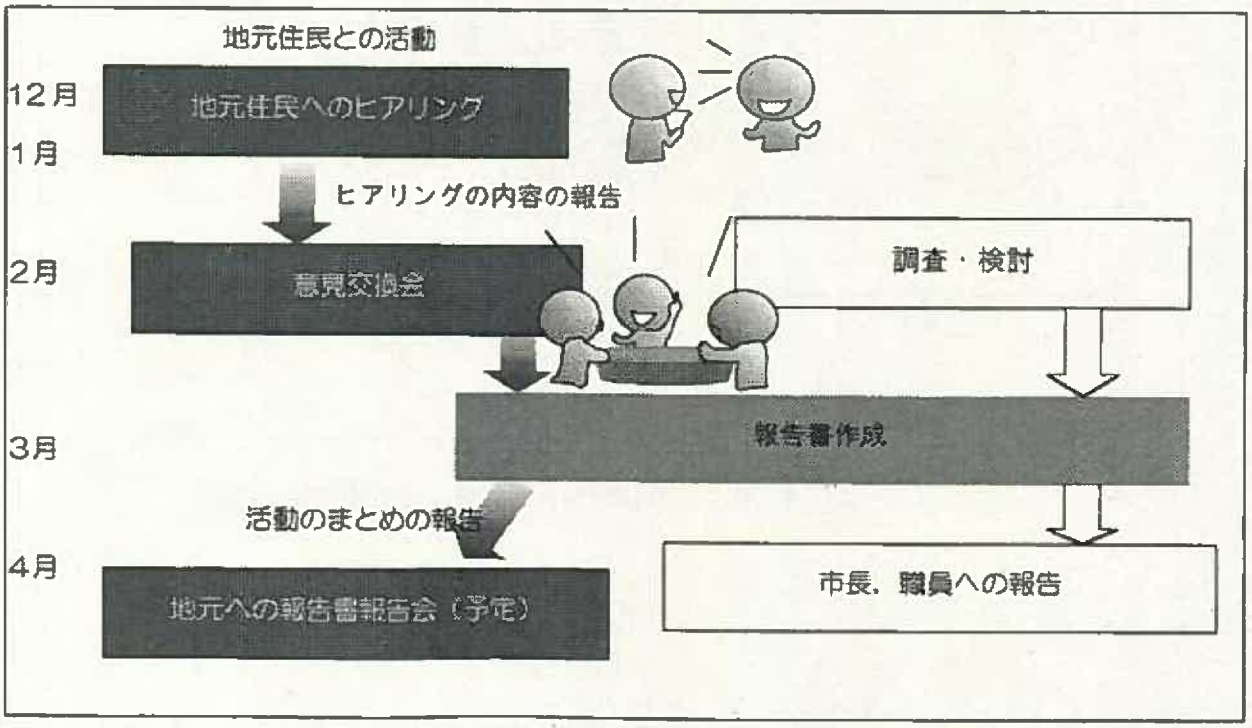
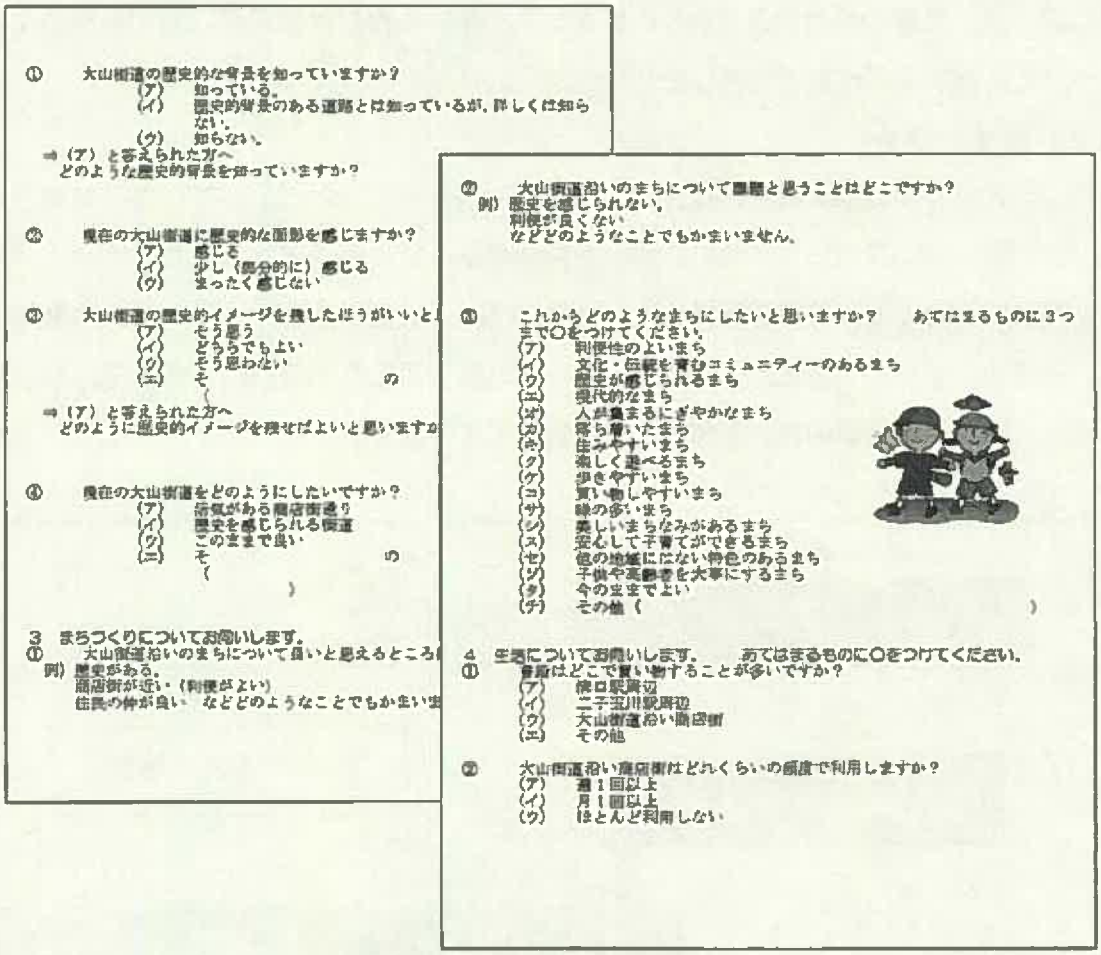


図 6-1-1　活動プロセス

2．地元住民へのヒアリング

（1）概要

平成 13 年 12 月から 1 月にかけて，延べ 15 名の方々にヒアリングを行いました。基本的には，事前に作成したヒアリング用シート（図 6-2-1）を参考にしながら行いました。20 代から 80 代までの，色々な立場の方に大山街道沿いのまちについての思いをお聞きしました。お聞きする際には，シートの質問に答えを出していただくというよりは，むしろ自由に大山街道についての思いを語っていただき，その中でシートのなかにある質問をところどころで答えていただくという形式で行いました。



①　大山街道の歴史的な背景を知っていますか？
（ア）　知っている。
（イ）　歴史的背景のある道路とは知っているが，詳しくは知らない。
（ウ）　知らない。
⇒（ア）と答えられた方へ
どのような歴史的背景を知っていますか？

②　現在の大山街道に歴史的な面影を感じますか？
（ア）　感じる
（イ）　少し（部分的に）感じる
（ウ）　まったく感じない

③　大山街道の歴史的イメージを残したほうがいいと
（ア）　そう思う
（イ）　どちらでもよい
（ウ）　そう思わない
（エ）　そ　の
（　　）
⇒（ア）と答えられた方へ
どのように歴史的イメージを残せばよいと思いますか

④　現在の大山街道をどのようにしたいですか？
（ア）　活気がある商店街通り
（イ）　歴史を感じられる街道
（ウ）　このままで良い
（エ）　そ　の
（　　）

3　まちづくりについてお伺いします。
①　大山街道沿いのまちについて良いと思えるところ
例）歴史がある。
商店街が近い（利便がよい）
住民の仲が良い　などどのようなことでもかまいま

②　大山街道沿いのまちについて問題と思うことはどこですか？
例）歴史を感じられない。
利便が良くない
などどのようなことでもかまいません。

③　これからどのようなまちにしたいと思いますか？　あてはまるものに３つまで○をつけてください。
（ア）　利便性のよいまち
（イ）　文化・伝統を育むコミュニティーのあるまち
（ウ）　歴史が感じられるまち
（エ）　現代的なまち
（オ）　人が集まるにぎやかなまち
（カ）　落ち着いたまち
（キ）　住みやすいまち
（ク）　楽しく遊べるまち
（ケ）　歩きやすいまち
（コ）　買い物しやすいまち
（サ）　緑の多いまち
（シ）　美しいまちなみがあるまち
（ス）　安心して子育てができるまち
（セ）　他の地域にはない特色のあるまち
（ソ）　子供や高齢者を大事にするまち
（タ）　今のままでよい
（チ）　その他（　　）

4　生活についてお伺いします。　あてはまるものに○をつけてください。
①　普段はどこで買い物することが多いですか？
（ア）　溝口駅周辺
（イ）　二子玉川駅周辺
（ウ）　大山街道沿い商店街
（エ）　その他

②　大山街道沿い商店街はどれくらいの頻度で利用しますか？
（ア）　週１回以上
（イ）　月１回以上
（ウ）　ほとんど利用しない

図 6-2-1　ヒアリング用シート（詳しくは資料を参照）

（2）ヒアリング結果のまとめ

このようなヒアリングを通して出てきた意見を項目ごとにまとめました。

a. 商店街について（図 6-2-2）

商店街に関しては，大きく「変化」・「人」についての意見に分類しました。

1．変化

（1） テナント，マンション：テナント，マンションが建設されることに関して反対意見というのはあまり見られませんでした。マンションが増えて欲しいという意見さえあり，背景を考えるとこれらが増えることはどうしようもないという意見も多かったようです。

（2） 再開発：再開発は大山街道の商店街にはあまりよい影響がなかったという意見がほとんどでした。

（3） 交通・道路：交通・道路については，今の大山街道は危なく，人が歩きにくくなっているということから，人の流れがこなくなったと考える人が多くいました。

（4） 業種：業種に関しては，人の流れが変わり，専門店化していかなくては生き残れないという意見が出ました。

これら４つの要因が互いに影響し合い，人の流れが変わってしまった，そのことが商圏にも影響しており，さらには大山街道の商店街が寂しくなってしまった，というプロセスを多くの方が感じているようでした。

2．人

（1） 後継者問題（人づくり）：後継者を育てなければという意見と，実際に後継者がいなくなってきているという意見，そしてその原因が現在の商売の状況によると考えているということが分かりました。

（2） 人の心の中にある商店街の歴史の重み：商店街の歴史の重みは感じる人と感じない人で温度差がありますが，感じる人は非常に強い思いを持っているようでした。

（3） 人の力による商店街の活動：商店街の活動に関しては，歴史の活動同様区民祭が大きな部分を占め，また，商店街のなかでいろいろな集まりをもち，事業をやっていることが分かりました。また，溝口と二子との連携の必要さを訴える方もいました。

変化

テナント・マンション

現状

今や商店よりもマンションの数の方が多い。

マンションが増えた。1階テナントだと空きがないみたい。2、3階になるとみんな空いているみたい。1階は自分が入るということもあるけれど、事務所だと儲かるから、みんなテナントにした。

マンション・アパートだとすぐ埋まるけど、テナントだと難しい。

原因

結局、後継者がいない、人に貸せば税金対策になる、など歯止めはきかなかった。それぞれの生活のことを考えれば強制はできないだろう

古い建物についてはマンションにするケースが多くなっている。

地元に住んでいる人も）固定資産税などの支払いが大変で、維持できない、税金対策のため、等でマンションやビルに転身していった。

マンションがもっと増えて欲しい。人口が増え、商売がさかえる。
昭和40年ころ、「立て替える時には1階は店舗にしてほしい」と申し入れしたこともあったが、うまくいかなかった

再開発

・ノクティは、商業を営んでいる立場からすると、全く地元の為になっていない。駅前にばかりお金を掛けている。駅前デッキからお客さんが降りてこなくなってしまった。もっと計画当初から反対しておくべきだった。金戸区画整理くらいがちょうどよいのではないか。駅前に大規模店舗を設置すると客がそこで止まってしまうので、近隣商店にメリットが生まれてこない。溝口再開発ができてしまってから、実感した。

・一昨年ノクティができて、田園都市線上の溝口駅の格は上がったものの、(大山街道には)予想以上の集客力はなかった。

・スーパーがあった頃は人の流れがそっちに行っていたけれど、今はここじゃお惣菜も魚も肉も買えない。みんな溝口の駅に行ってしまう。

影響

人の流れ

現状

・人の流れが大山街道を通過する流れから、街道を横切る流れに変わってきた。高津小学校への通学も裏側の道を利用している生徒が多い。

・終戦後駅前に中心が移ってしまった。亀屋の脇を通って駅に行った。いまは大山街道を通らないで駅に行くようになった。

・大山街道には人の流れがない、府中街道のほうが人の流れが良い。

・府中街道沿いの商店街は活気があるのに対し、大山街道の活気は衰退する一方である。

・夜人通りが少ないため、飲食店の経営が大変だと思う。

考えうる対処法

・大型店舗を持ってこないと人の流れがこないと言ったけど、みんな反対するから出来ない。

・商店がセットバックをして歩道をつくる協力をするなどの妥協点を見出さなければ商売が成り立たず、自分で自分の首を絞めているようなものだ。

・歩道が無くても、必要があればここにくる。歩道だけつけても仕方ない。

影響

交通・道路

・自動車排気ガスによる環境、自転車の客の不便さ(止める場所やちょっと寄るには不便)、お年寄りや子供が危険などの客より苦情があった。

歩道がなく交通量が多いので、客が地域特性上、お年寄りや子供連れが多いため、危険だと感じる

歩道がないなどの道路状況では、客は立ち止まりにくいし、買い物も危険となる。「歴史」というキーワードがあっても、歩道がないとどうしようもない。歩けないとどうしようもない。

子供たちには大山街道は危険な道と教えている。歩道を作って欲しい

・大山街道は歩道がないことから単なる車の道路と化している。歩道の整備が必要である。

商圏

遠くは厚木からの注文もある。外国にも輸出したこともある。

ここにいて引っ越した人もいるから、横浜の港北区から、生田近くまで配達している。昔は自転車で配達していたので高津周辺くらいだった。

今は車社会なので、車が止められるところにしか行かない。駐車場スペースのない大山街道は、商圏としては衰退している。

業種

変化

・ここは街道の宿場町だったから、瓦屋・大工・下駄屋・履物屋もあったが今はない。時代によって衰退する商業も多い。

・以前はコンビニだった。あちこちにコンビニができたのでやめてしまった。

・昔このあたりには豆腐や牧場があった。お店にみんなが遠くから買いにきた。人形のこうしやとか、呉服のしまやとか。

・昔はここでなければ無かったものがあったので、皆がきた。

・自分が子供の頃の(大山街道沿いの)商店街は、生活に直結した店舗だった。今は各店舗に肉や魚を買いにいかずとも、スーパーで事足りてしまう。

これから

同じものを売っていたのでは他の地域との競争に勝てない。専門店化(計測機器・金物・人形など)を図ったほうがいい。

(商売が上手くいくかは)職種にもよると思う。

専門性の高い商店が生き残っている。

大型店舗は、安売りをして個人商店をいじめていたのに、赤字を出すと国から税金で助けてもらうのはとんでもないことと思う。個人商店は自分で責任を負っているのに

個人商店が大資本にうち勝つには気持ちの切り替えが必要。

図 6-2-2 商店街について

人

後継者

・後継者を育てなければ400年の歴史もつぶれてしまう。継承者を育てること、また、継ぎたいと思わせる魅力づくりをすることが必要。地域を支える人材も育てることも必要。

・子供の頃から継ぐものと思っていた。父のやっている仕事が面白そうだったから。継ぐだけの魅力はある。

・（自分は）子どものころから店を継ぐと思っていた。

・今は子どもにはかわいそうで継がせられない。子どもに継がせるには夢が無い。継がなかったらそれで仕方ないと思っている。

・商店街の後継ぎがいなくなってきている。

原因

・継ぐにはその商売で親子2代が生活していけるほどの利益があることが必要。小売店舗は付き合い等も多いので、金銭的にも時間的にも余計にかかる。このあたりの次世代は継ぐのが嫌で勤めに出ている人もいるだろうが、継がせたくても生活費が出ない現状のところも多いのではないか。

「歴史の重み」への思い

・先祖から受け継いだ財産を自分の代で減らしてはいけないという意識が強い。

・自分の代で潰してはいけない、次の代に繋げなくてはいけないというプレッシャーがある。男の子が生まれなかったらどうしようと

・歴史の重みを感じ、大事なことなので、自分も子供に伝えていきたいと思う。

感じる

・伝統があるからつぶせないというのはない。

・歴史や文化だけでは商売はやっていけない。

・商売上も大山街道を意識したことはない

感じない

商店街活動

集まり

・商店街で、活性化の話しは集まってしている。

・商店会の役員会は月一回会合をもっている。定期的に町会と商店会とで会合を持つことで、情報が入ってくる。

商店街としてイベントをやろう、という発想はない。

区民祭

・青年商工会議所は市に一つだが、川崎市は南北に長いので、2つに分けたかったが、無理だった。そこで、高津だけで青年会議を作った。そこでなにをやっているかというと、区民祭くらい。

・大山街道の名前を残したいと、区民祭を始めたが、今の人は「大山街道」には関心がないね。（今の区民祭は）最初の趣旨にあっているのか、疑問がある。

事業

・高津の交差点から、亀屋前まで、日曜祭日を歩行者天国にしたことはある。

・大通り昭和会が50年を迎えたので、共済事業として、今年の夏、水銀灯を建て替えた。

・スタンプラリーは、おととし、去年は二子とジョイントしてやった。やめたのはメリットがなかったからだと思う。区民祭も、盛り上がるのはこの辺で、二子のほうまでひっぱっていくためというのもあった。

・年末のスタンプラリー（スタンプラリーの商品（商店街の商品券）は、商店会費から出している。）

二子と溝の口の協力

・溝口と二子の商店会は出来れば一緒になにかをやりたいと思う。

その他

・各種の店舗が連続していると、消費者にとって一時にほしいものが購入できる。つまり、何かしらを買いに消費者が訪れる。ただ、近年は大型店との競争に勝つのは難しい。同種の店舗が連続している場合は、専門店化し、店同士で品物を交換できること。品揃えが多くなるが、実際単独ではそんなに種類を抱えられないので、助かる。商品が豊富にそろうメリットがある。いずれも、この大山街道沿いには連続はなく、そのメリットも少ない。

・店舗を拡充しようと思って、商工診断を受けたこともある。しかし結果は、将来的には全く暗いというものだった。

・二子新地の駅前のように、商店街としてコンパクトで詰まっていればもっとよかった。あっちのほうが商店街らしい。ここは範囲が長すぎる。

・結局、商店街の売上げの向上といっても、個々のお店の魅力で（固定）客を掴んでいるからできる話なのだ。福引で景品が当たるから、安いから、だけでは客は集まらないだろう。自分で価値があると思っている（を見出す）ものにはお金を払うが、ただ安いからといっては買わないようになってきた。

図 6-2-2　商店街について

b. コミュニティ活動について（図 6-2-3）

1．町会

（1）問題点

町会に新住民の方々がなかなか入ってくれないという問題点を感じている方が多かったようです。また，引き受け手やお金の問題，硬直化などが問題点として挙がりました。

（2）活動

主な活動としてよく出てきたのは，防犯灯の設置でした。また，町会にはいろいろな構成員がいて，それぞれの活動をしているようでした。1のような問題点はありながらも，町会活動にやりがいを感じている様子がみられます。

（3）その他

町会に興味がないという意見も中にはあります。

2．地域活動

高津小学校と地域との交流があるようです。

3．新住民

あまり旧住民と新住民の交流がない様子が見られます。

図 6-2-3　コミュニティ活動について

新住民

・新住民とはほとんど交流はない。賃貸住民が多く地域に関心があまりない。ワンルームマンションなんて出来たってなんの意味もない。分譲住民はまだ協力的だ。

町会への加入

・マンションの新しい住民は町会にはいってこない。これは、全市の町会の会合で聞くと、どこも一緒らしい。新しいマンションが建設されるというので、町会に入ってくださいと誘いに行ったら、「町会に入ればメリットがあるのか」と言われた。

・最近、新住民や地域内の大企業は町会費や商店会費をあまり払わない。(本社の意向等が理由となっているようだ)住民・児等が安全に歩けるように外灯を設置したり、ごみ箱を設けたりしているのは町会費や商店会費で、その恩恵を受けているのに会費を支払いたくないというのはどんでもない。

・マンションのオーナーが土地の人ならまだよいけれど、そうじゃなければ、町会にはなかなか入ってくれない。

・町会加入については、管理会社(オーナー)が地元の人ならまだいいが、都内の人だとダメなことが多い。そうすると、国勢調査のときに困る。

不特定多数に対し、もちつき大会、1日のバス旅行を企画しても、殆ど新しい人(新住民)はこない。(まれに地元の知り合いに誘われてくることはある)町会がああしなさい、とはいえない。

旧住民

・旧住民とはまちについて話をするが、あきらめているのではないか

交流

あるとき、若いお父さんやお母さんに、町会活動の感想を聞いたときに、「こんななごやかなことを地域でしていると思わなかった」と言われた。これは嬉しかった。

町会

・商店街や町会のことはあまり知らない。

・町会の位置づけが不透明

・選挙の報告、ごみかごづくり、街灯整備は行政の仕事では、という不満の声も。

問題点

・問題点は、引き受け手がない、硬直化、高齢化。(今年11月中原区で、全町連の大会にてアンケートをした所はっきりわかった。)

・問題は維持費。賃貸月5万円。年間60万円かかる。使用しないときは貸館もして収入増をはかる努力はしているが…。二子の第3・4町会は二子神社内の会館を第1・5町会は老人いこいの家を利用している。

活動

・災害時も役所が全部できるわけではない。地域の結びつきが役に立つ。阪神大震災のときのように。

・班長は理事の下にあり4～5軒から多いところで30～40軒まとめている。行政との絡みで役所にお願いすることは町会がやります、という。町会が持っている150本の防犯灯に、2～3年前に町会名と番号をつけた。どこが壊れているかなどすぐ分かるので、電気屋さんに直に連絡して、すぐ直せるようになった。防災・美化・環境・治安が町会の役割。

・困ったことがあったら班長に言ってくださいといっている。・

・町会は地域の活動、野球とか、に助成をする。

・子供会や婦人部など部会単位の活動も行っている。

・市政だよりを配布したり、防犯や、電灯の設置などの活動がある。

・二子中央会館を年間契約で借りて使用している

・町会の構成員は、子供会、青年部、婦人部、などなどを含めれば、限りなく幅が広い。工業関係者のほか一般のサラリーマンも構成員なので、定例会は夜、町会の集まりもある

・町会費で外灯の補修をしている。町会は地域を歩いて回って、痴漢・ひったくりの出た場所は電灯を明るくするなどの防犯活動もしている。行政からは電灯の補助はもらっているが、街灯の設置費はもらえない

地域活動

・自分は伊藤市長に公民館のようなものを作って欲しいと、ふるさと館の陳情をした。ここは昔公園だった。今南公園のところが公民館だった。運営委員は年に4回やっていて、自分も入っている。ここは区民祭の本部になったり、町会の理事会をしたり、年に6回年寄りの会食会に使っている。

・夏休みの自由研究で高津小学校の子がよく来る。

・小学校の授業のなかでは3年生のときに『高津の昔』というテーマで学習をする。4、5人のグループになり高津区内の神社や寺、町の昔の様子や暮らしについて自由研究をする。その中で平成12年の生徒数134人に対して、大山街道関連を題材にしたのは、46人いました。題材は、医療館の歴史、蔵の構造、大山街道にある古い建物、二子神社について、田中呉服店の昔の様子、などでした。過去にはPTA会長であった鈴木清次さんにも、ゲストティーチャとして大山街道についてお話を聞いたこともある。その他では、大山街道ふるさと館で夏休みに、上田恒三さんによる、なんでも相談室を開催しており、そこで勉強する人もいる。

・高津区の大祭の時には活気が出ている。

c. 暮らしやすいまちとは（図 6-2-4）

ヒアリングをした皆さんに共通の質問として，「あなたにとって暮らしやすいまちづくりとはなんですか？」という質問をしました。住民の立場として，また，商人の立場として，という一人の方の中で２つの立場でのお答えをされるかたが多くいらっしゃいました。質問に対してのお答えは大きく分けると３つに分類されました。まず「今のまちのくらしやすいところ」，「今のまちの暮らしにくいところ」，そして「暮らしやすいまちのイメージ」です。

１．住民の立場として

基本的に多くの方は住民としていまのまちを暮らしやすいところだと考えているかたが殆どでした。その理由として，物価が安い，利便性がいい，昔から住み慣れているということが挙がりました。逆に暮らしにくい部分としては，商店街のつながりや飲食店の充実，安全性について意見がありました。そして，では暮らしやすいまちのイメージはということで出された中でも，この「じんきのあるまち」というキーワードが印象的だったのですが，これはいいコミュニティを持っているまちを表すと考えられます。

２．商人の立場として

商人の立場から言っても，大山街道は立地がよいところだと考えていました。暮らしにくいところとしては，人が歩かないということでした。商人として暮らしやすいまちのイメージは，にぎやかな人が集まり，安全に歩けるまちとのことでした。

○ 住民として

今のまちの暮らしやすいところ

・ここは十字屋とか、服とか、物価が安い。
・物価が安い。

・交通の利便性がよい
・東京に近い
・電車、バス、インターチェンジなど便がいい

・大山街道ぞいは、飲食・物販店ばかりでなく、(自分の所のように工具店など)職人も多い。(ずっとみな地元で育ってきたので)仲間がいるから、家が存続する限り、ここにいたい。生活には便利な場所だし。

・わざわざ移ったとて、今の場所より良い条件のあるところがあるとは思えない。

・住み慣れたまちがいい。

・暮らしやすいまちづくりという話ならば、ここは一度入居するとずっと出て行かない人がいるように、暮らしやすいところだと思う。

今のまちの暮らしにくいところ

・いい飲食店がない。いい店が育たないのは、逆に物価が安いので客層もその程度だからではないか。

・安全なまちがいい。近頃は不穏な事件が多く、心配だ。昔は、隣人の家の中でも「ちょっとごめんよ」と声を掛けて通っていたものだ。隣人と親しくお付き合っていたからだろう。現代ではもう不可能である。

・商店街が駅からここまで続いていたら、もっと良かった

暮らしやすいまちのイメージ

・親しめる町
・楽しい町
・人がそこに居ることの出来るまち。
・緑の多いまち。
・子供や高齢者を大事にするまち。
・安全なまち

・住民としては、じんき人気(その地方の人々に普通に見られる気質)のいいまち。例えば、道を尋ねてもすぐ答えてくれるとか、親切なまち。普通に挨拶ができるまち。相互の意思疎通ができている。下町みたいな感じ。住民がいい関係であること。相互の意思疎通が大切。

・基本的には住みやすい街であるべきと考えるが、歴史を引き継ぐことも重要である。

○ 商人として

・商人としては、立地がよい。物流の基本は東京なので、東京に近く、第3京浜・東名高速に近いなど物流がよい

・商売する立場だと、業種によってちがうと思うが、人が少かない。

・人が集まるまち
・人が集まるにぎやかなまちがいい
・安全に歩けるまち。お店があって。

図 6-2-4 暮らしやすいまちとは

d. まちのなかの歴史について（図 6-2-5）

歴史については，２大テーマ・「資源」・「活動」に分類されました。

1．資源

「資源」については，資源がもう失われているという意見が多いこと，そしてその理由について，お金の問題が大きいと考えている人が多いことが分かりました。

・蔵

歴史的資源といえば「蔵」がよく言われますが，蔵を保存したいという意見もあれば，「蔵はもういらない」という意見も多くでました。住民の中でも，蔵の保存に対しては意見が分かれるようです。また，特に大貴家の蔵については，無くなったのは仕方ないという考えでした。

2．活動

「活動」に関しては，述べられた意見は現状とこれからについてでしたが，現状では区民祭が歴史を感じさせる活動として大きいこと，また，これからに関しては，大山街道の歴史的な価値を発見して，マップ作りなども考えられるという意見がありました。

歴史的資源についての意見

歴史的資源といえるもの

宿場ではなく、通過地点であったので、歴史を感じさせるような資源はない。

建物も保存するほど貴重なものはない。商業が栄えることが第一だ。歴史的な街並みの保存は不可能だろう。

大山街道は昔からの宿場町で、歴史はあるが、現在は疲れてきている。歴史の名残だけが心の中にあるという感じだ。

今の大山街道は、昔の面影は何も残っていない。

資源が消えた

岡本かの子

多摩区で美術館が造られてしまったが、全国的に知られている岡本かの子・太郎・をピーアールするべきであった。また、大貴病院は岡本太郎の親戚であったにも関わらず、何もしなかった。

蔵

蔵はいくつか残っているが、建造されたのは比較的最近で、歴史的な価値はないのではないか。同じような蔵はほかにもあり、珍しいものではない。

蔵について役所は保存してとか言うが、昔のものが残っていても役に立たない。所有している者は住みづらい。蔵は壊したっていいのではないか？

蔵を保存したところで、現在、家主が繁栄していないとアピールにはならないのではないか。

蔵不用論

昔からあるものは、灰吹屋の蔵。

店舗に直結していて、倉庫として使用している所もある。所有している蔵は、今後も倉庫として利用し、残していきたいと思っている。会社のシンボルとして。

お金

土地があると税金がかかるので、マンションにしてしまう。

建物を残すには固定資産税等により費用がかかり、厳しい問題が生じるが、貸し事であればあれば残すことができる。

ずっと土地に住み着いている人でも、世代交代の時に歴史が引き継がれていないのが現状である。

維持・補修に金がかかる（簡単な補修（瓦の葺き替え）でも100万円はかかる）。また、補修も最近は職人がいないため難しい。

昔のものが残っていないのは相続税のせいではないと思う。昔は蔵が何個もあった、昔のままでは維持できない

ここは商業地域だから、高いものが建つのは仕方ない

大貴家の蔵

大貴病院の蔵の取り壊しについて、地元では反対したが、蔵の補修費が1,000万円かかることから諦めざるを得なかった。

あれは（大貴家の蔵）をこわすのなんのの話しじゃなくて、反対している人は、高いものを立てて欲しくないから蔵を理由にしているだけじゃないの。不法建築ではないのだから、市も許可せざるを得ないだろう。反対のための大義名分でしかない。生家をとっておくならわかるけど。

蔵は何故失われたのか？

歴史的資源が何故失われたのか？

歴史的活動

現状

歴史を残すために旗揚げをする人がいない。

区民祭

区民祭の時には灯篭を灯けている。
今の高津区民祭は当初、青年会議所により立上げられた。

9月15日の高津区民祭は大山街道を主体として開催されており、区民祭を通じて展覧会・写真会等の方法により新住民や区民に大山街道の歴史・文化を伝えている。

これから

大山街道の歴史的・文化的な価値を見つけること。

マップ

東海道53次のような、大山までの連続マップを作って欲しい。

子供たちにもわかりやすい、マンガ絵の大山街道マップを作って欲しい。

浜田庄次の記念館を設ける。

図 6-2-5　井ちの中の調査について

e. 年表

ヒアリングから出てきた意見を年代別に並べてみました。住民の人が感じている大山街道周辺のまちの変化が良く分かります。

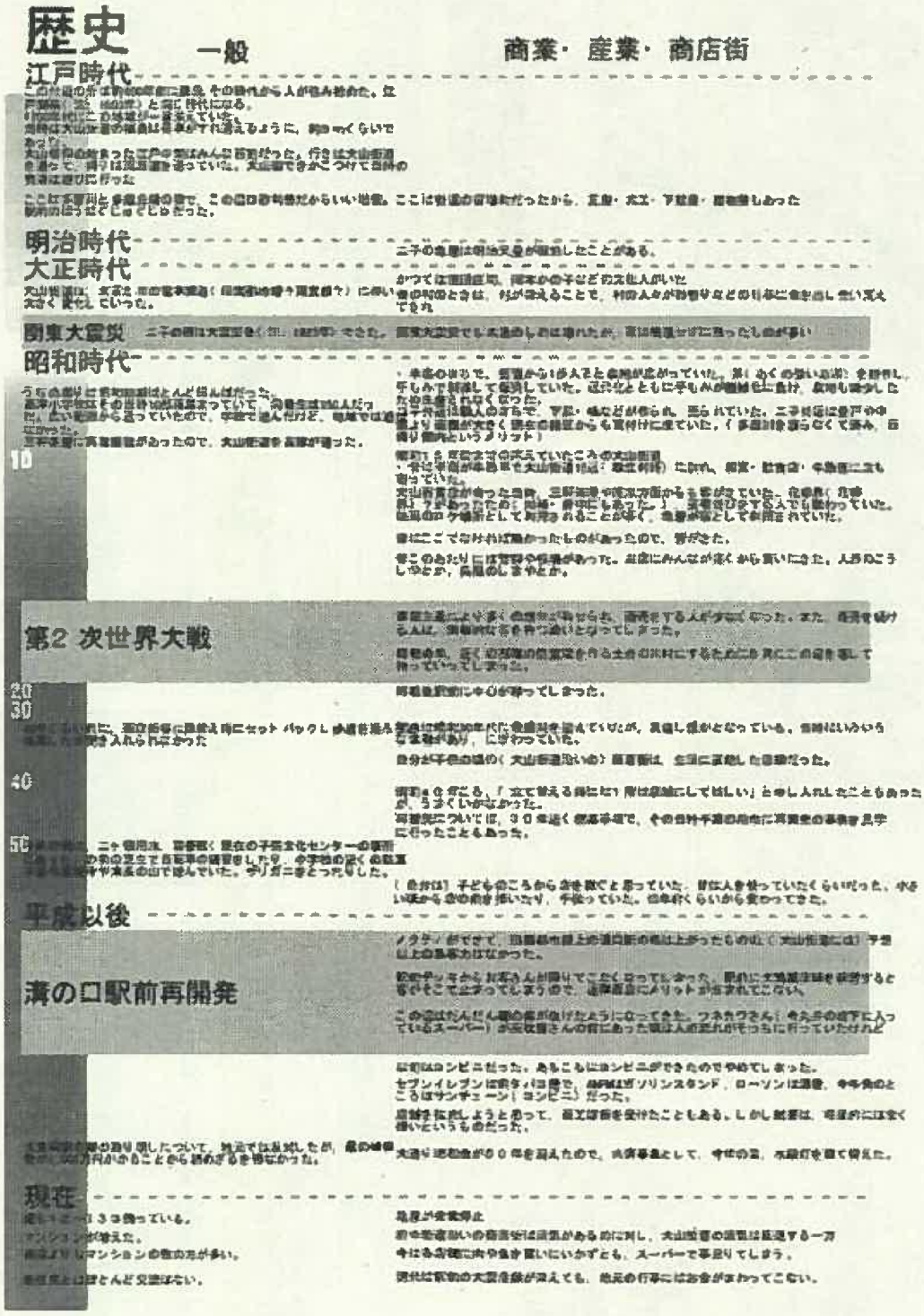


図 6-2-6　住民が感じるまちの歴史

f.　その他

(a) これからのまちづくりについて

歴史や古い体制にこだわっていてはいけない、新しいやり方があるのではないかとの意見や、まちづくりには長期的ビジョンを持つべきだとの意見が出てきました。

意見例：

- 大山街道はどうしようもないと思う。蔵は壊してしまって、次の一手を考えるべき。蔵は壊してもいいと思う。ここで暮らしていくことが最優先である。古い体制からの転換期にきている。
- 分かりやすい議論をするべき。市民が安心して暮らせて豊かで、気持ちよく税金を払えるまちづくりがいい。
- シミュレーションをして、新しくする店は長期的なビジョンでやらなくてはいけない。ただ、全員の合意をとるのは難しいし、一方通行にすると言ったって、どっち方向に進むようにするのか、それにここが一方通行になればどっかの道に影響があるだろうし。
- 歴史的イメージを残した町はいらない。それよりも町の名物を作り新しいやり方で盛り上げたほうがよい。→例えば、お好み焼きの町、焼きそばの町、サザエさんの町みたいなもの。
- 住みやすく、歴史の面影がある街がいい。しかしながら、歴史の残し方が問題であり、建物を残すことは時期的に遅すぎる。近代的または今のままでもいた仕方ない。

(b) 遊び場・買い物について

住民の方々に、普段どこで買い物されるかをお聞きしました。ノクティや渋谷、若しくは二子玉川で買い物される方が多いようです。便がいいので、どこにでも出やすいということは、逆にお客さんの流出という結果を招いているようです。

（３）住民のヒアリングから

歴史的資源が失われていく，既存のコミュニティ活動である町内会などが上手く新住民を巻きこまめないなど，時代の変化による影響を強く感じている様子が見てとれました。時代の変化についていくことの難しさを感じながらも，便利で住みやすいこの地域で暮らし続けたい，そのためにもまちをなんとかしなくてはという思いが見られます。

３．意見交換会

平成１４年２月５日，14 時から，大山街道ふるさと館にて意見交換会を行いました。ヒアリング対象者延べ 15 名の方々に参加をお願いし，内８名から参加しますとのお返事をいただきました。当日はあいにくの雨でしたが，７名の参加をいただきました。

（１）意見交換会の流れ

１．受付と同時にクジをひいてもらい，グループ分けをする。
２．ヒアリング結果報告
　ヒアリングのまとめ（図 6-2-2～6）をもとに発表
３．意見交換（シミュレーションゲーム）
　バーチャル大山街道の上で貼り付けシミュレーションを行いながら話し合いをする
　各グループごとに発表する

6-3-1 意見交換会の様子

（2）シミュレーションゲーム　on バーチャル大山街道

バーチャル大山街道（図6-3-2）は、住民の方々にヒアリングしたなかから出てきた意見を基に、「昔」「今」「未来」の3つの大山街道を並べたものです。この上に建物や舗装のツール（図6-3-3）を貼り付けながら、未来のまちなみやまちでの活動、道路のデザイン等を話し合ってもらいました。

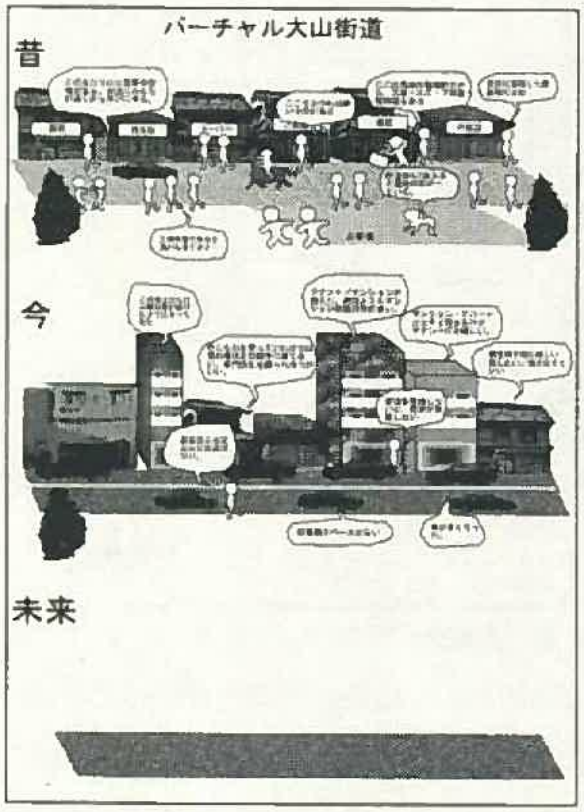


図6-3-2　バーチャル大山街道

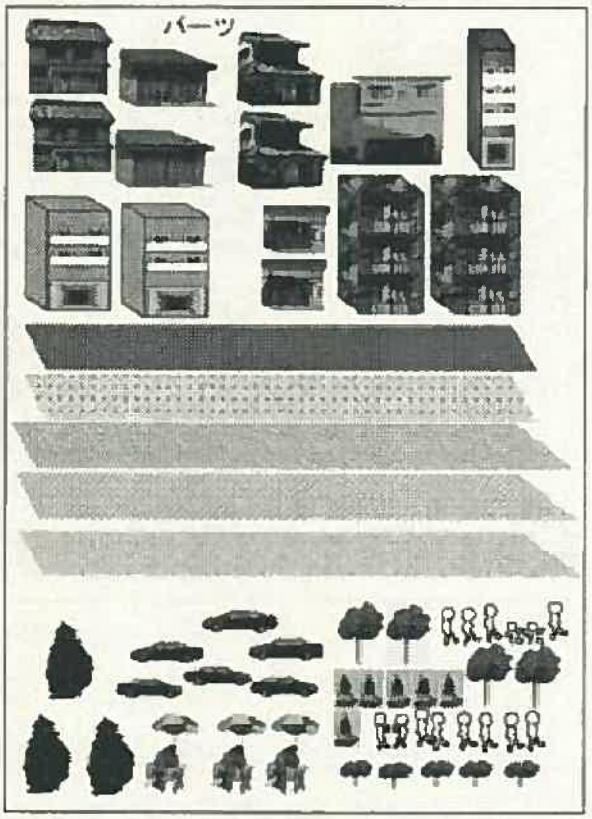


図6-3-3　ツール

これに加え、ヒアリングの結果からでてきた言葉をキーワードとして、カード（図6-3-4）を作成し、このシミュレーションを行うにあたってのヒントとしました。

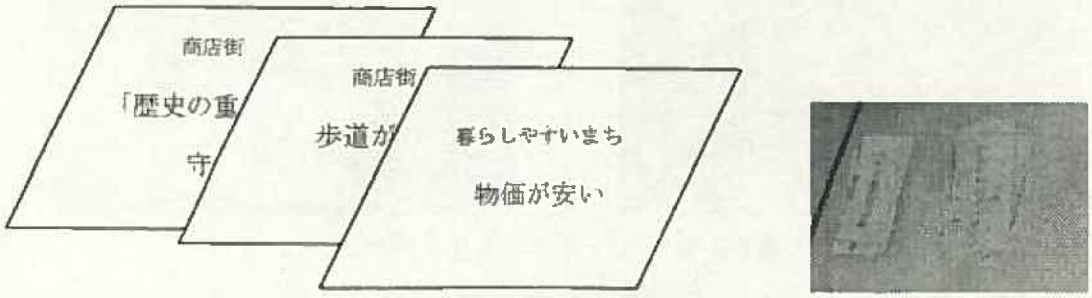


図6-3-4　キーワードカード

（3）意見交換会の結果（グループ1）

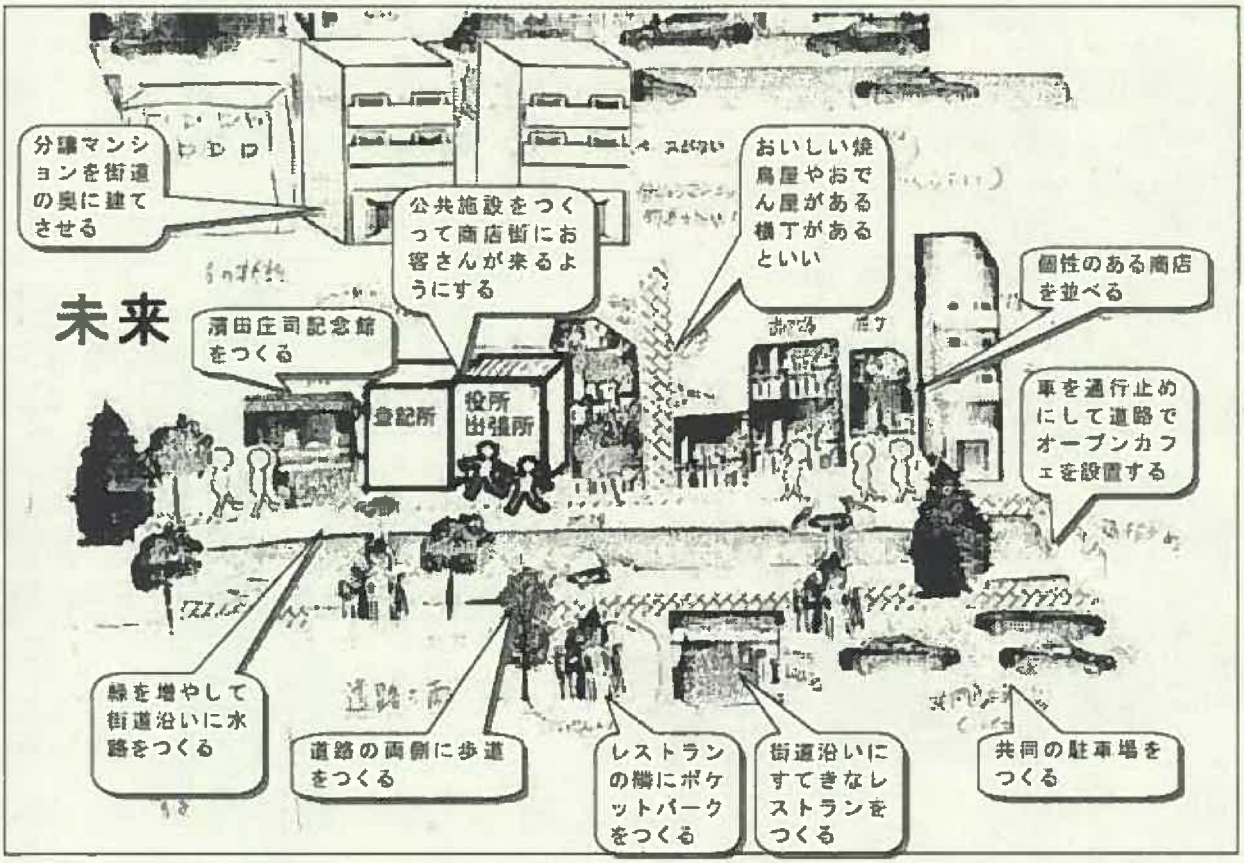


図 6-3-5　バーチャル大山街道（未来像）グループ1作成

まず参加者の方々から，現在の大山街道から思いつく問題点や意見を出してもらい，それをポストイットに書いて貼っていきました。最初に出た意見は，大山街道の両側に歩道をつけるという案です。歩道がなく車の通行も多いので，商店街を利用する人や住民が歩きにくくなっている点を改善したいという意見でした。歩道がないことが商店街の衰退の一因と考えているようでした。まずは歩行者優先のまちで考えていくことになりました。

図 6-3-6 グループ1　意見交換状況

そこでスタッフがバーチャル大山街道の両側に歩道を貼っていきました。すると，お客さんを商店街に呼ぶための魅力づくりとして，いっそ街道を通行止めにしてオープンカフ

ェを実施して賑わいを演出する，緑を豊かにして暗渠にした水路を復活させる，街道沿いにすてきなイタリアンレストランなどをつくる，ポケットパークをつくって街道沿いにオープンカフェを設置して賑わいを演出する，などの意見が次々と出てきました。また大山街道に車で来たお客さんに大山街道を歩いて買い物をしてもらうため，街道沿いに公共駐車場の整備をしたらどうかという案も出ました。このようにしてつくった道をベースにして，今度は未来のまちなみについて話し合いました。参加者から出た主な意見は次のとおりでした。

・高層の共同住宅は，大山街道沿いではなく，それより奥につくらせる。大山街道沿いには個性のある商店を並べる。
・この街道沿いに、市民がどうしても来なくてはならない所を造ればいい。役所とか、登記所とか。図書館はだめ。その行き帰りにお店に立ち寄ってもらうようにすればいい。
・大山街道から脇に進むのような赤提灯の街なみが欲しい。焼鳥屋，おでん屋といったお店が並ぶ横丁になればいい。
・大山街道ふるさと館を濱田庄司記念館にしていたら、他所からもっとお客が来て、だいぶ違っていたと思うけど。

以上の意見を反映させて参加者の方々がパーツを貼り付けて完成したバーチャル大山街道が（図 6-3-5）です。その後で，ほかにも道路のあり方が考えられるかという意見が出て，もう一度みんなで考えました。歩道をつくるために道路の一方通行化をする，ジグザグ道路にして車のスピードを落とさせる，いっそ車道を４車線に広げて横断歩道を設置するなどの意見出て，スタッフが模造紙に描きながら議論したところ，やはり一方通行というのは交通量から考えると現実的ではない，４車線にして車道を広げるとバイパス道路になって大山街道は単なる通過点になって商業が衰退してしまう，横断歩道をつくったら歩行者は安全だが視覚的にも地域が道路で分断されてしまう，という認識を持ちました。

このようなシミュレーションゲームを通して，議論だけの場よりも気軽に，活発な意見交換が行われたようです。また，私たち職員も住民の方々がまちづくりにどのような願いを持っているかを知り，貴重な体験になりました。

（4）意見交換会の結果（グループ2）

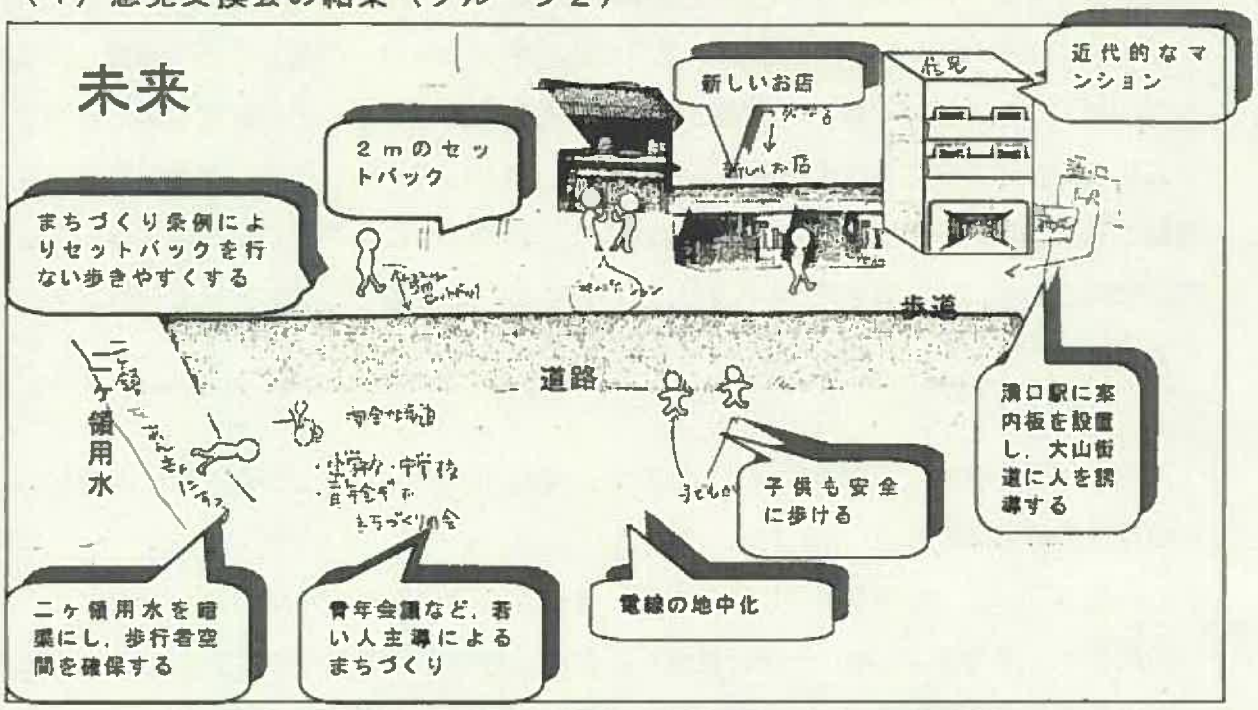


図 6-3-7　バーチャル大山街道（未来像）　グループ2作成

グループ2の主な発表内容としては，次のとおりです。

- 必要性に応じたまちになってきていることから，無理をして歴史的なまちにするのではなく，住みやすいまちにしたい。
- 商売にこだわらず環境にこだわる。道が7mと狭く，子供も安心して歩けるまちにしたい。みんなが2mくらいセットバックをし，後退した人には容積の割増を与える。
- 長期的なプランが無いのが問題である。行政が一方的に考えては地元には受け入れにくく，否定されやすいので，青年会議等の若い人によってプランを作成させる。今，大山街道で一番盛り上がる区民祭を利用して，まちづくりについて考える場を設けたい。
- 二ヶ領用水を暗渠にし，駅前に案内板を設けて大山街道に円滑に誘導する。
- まちづくり条例のような条例的なものを制定し，セットバック等の義務付けをし，まちをつくっていきたい。

グループ2は，現在の大山街道にはいくつかの蔵が残されていますが，所有者に莫大な維持管理費がかかる蔵の保存をして歴史的な建築物を残すのではなく，基本的に

は自分のまちを住みやすいまちにすることが最も優先的に考える問題であるとの意見になりました。

理由としては，今の大山街道には歩道が無く，子供やお年寄りが安全に快適に歩くこともままならないことから，まずは自分達のまちに対して愛着がもてるようにすること，そのためには住民主導によるまちづくり条例のようなものを制定し，大山街道沿いの店舗・住宅に対してセットバックを義務付けし，あるいは電線の地中化を行い，安全で快適な歩行者空間の確保を行うべきだと考えたからです。ただ，単にセットバックを義務付けるのではなく，セットバックを行った人に対しては容積率を増やすなどの誘発的要因を与えることが，より一層住民の理解を得られると思われます。こうした居住環境を向上させる計画の中で，初めて住んでいる人も地元に対して愛着が持てるようになり，また，外からの人にも入りやすくなります。そして，長期的な計画となることから若い人達を中心に活動を行い，その活動あるいは内容に対して実行できる大人たちがバックアップを行うことが理想的であると考えました。

図 6-3-8　グループ２意見交換状況

（5）意見交換会を終えて

意見交換会を通して，主に出てきたまちづくりに対する意見は次のとおりでした。

ハードについて：

・ 交通の整備：歩道の整備や道の拡幅，駐車場整備，水路整備など

・ 拠点の創出：カフェ，濱田庄司記念館，公共施設，居酒屋など

・ 賑わいの演出：オープンカフェ，ポケットパーク，案内板の整備など

ソフトについて：

・ 長期的なビジョン・まちづくりの決まりの必要性：まちづくり条例，まちづくりプランなど

・ まちづくり活動の必要性：青年会議など

前述のとおり，各グループでハードの整備についても様々なアイディアが出てきましたが，結局，まちづくりをするには，長期的なビジョンやまちづくりに関しての決まりが必要である，また，そのためには，「せっかくこのような時間を取ったのだから，このまま終わってしまってはもったいない。次にまたこのような席を準備して仲間を結集して（やりたい）。」，「青年会議の主催で，このような会を半年に一度くらい開催したほうがいい。」というようなまちづくり活動をする組織が必要になる，という意見が意見交換会の最後に参加者から出てきました。また，「まちづくりを進めていく上では，官民一体となっていかなくてはならない」，さらには，「住民が率先しなくては」という意見も出ました。

今回意見交換会を開催したことについて，「他の人が考えていることが聞けて面白かった。」という意見がありました。さらに，「できれば若い人の意見も聞きたい」という声も聞かれました。また，住民としてこれから，「なにか小さいことでもいいから進めて行きたい」という意見もありました。

第７章　まとめ

１．これまでの調査を通して見えてきたこと

わたしたちは，これまで「歴史を活かしたまちづくり手法の検証」というテーマを前提に，川崎市の施策，大山街道の歴史と現在の課題，他地区の事例などいろいろな面から「歴史を活かしたまちづくり」について調査を進めてきました。

「川崎市の文化行政の現況」では，大貫家の蔵のような文化財の保護制度に適用されない文化資源の保護の難しさ，住民要望の多い濱田庄司記念館のようなハード的なまちづくりの財政上の困難さ，大山街道ふるさと館が果たし切れていない大山街道のシンボルとしての役割などの課題が挙げられました。これらに対するまちづくりについては，行政と市民がそれぞれバラバラに点のような活動を行うのではなく，区民祭の時のようにお互いが同じ目的に向かって協力し，繋がりのある活動を行う必要があります。

「現在の大山街道」から見えてきた課題として，道路・交通の状況では，交通量の多い地域道路にもかかわらず車道と分断された歩道がなく，事故の数も国道 409 号線の３倍と非常に多くなっているため歩行者の通行量が減少し，商店街の低迷にもつながっています。また，まちなみの観点から見ると，建築物のデザインや色の一体感が感じられない，電線で景観が阻害されている，広告物の大きさや色がバラバラになっているなどの課題が挙げられました。これらの対応策については，電線の地中化を検討しながら，沿道建物の建て替えに合わせてセットバックを行うことで，歩行者空間を確保することや，デザイン・色・広告物などが景観と調和するように，ルールを定めていくことが考えられます。さらに住民のまちづくり活動については，溝口・二子大通り活性化グループや R246 地域間ネットワークのようなソフト系の活動が増えていることから，これからよりまちづくり活動を盛んにしていくことが期待されます。

その上で住民の方々のまちづくりに対する考えを聞く機会も得ることができました。研究対象地域の住民の思いを聞き，住民活動や現状を調査して分かったことは，住民は必ずしも第５章で紹介した他都市のようなハード中心の「歴史を生かしたまちづくり」を望んでいるわけではないということです。また，事実，近年の厳しい財政状況と，既存市街地であることを考えると，研究対象地域でハードの整備を行うことは住民合意までの時間と整備のための莫大な財源が必要となり，すぐには対応できない状況となっています。その一方で，住民に調査をして，大山街道が持つ歴史を大切に思っている住民も多く，それぞれに地元のまちづくりを，「このままではいけない」・「どうにかしたい」との思いを持っているということに

気づきました。

しかし，現在の大山街道では住民それぞれが持っているまちづくりへの思いを共有化する場がありません。

では，住民の方々の多くが持っている歴史とまちへの思いを共有化し，まちづくりに活かしていくにはどうしたらよいのでしょうか。

2．これからの方向性・可能性

第６章の意見交換会のまとめでも述べたように，参加者は今回の意見交換会を通して他の人の地域やまちづくりへの思いを知り，また，このような意見を共有する場の大切さを感じたようです。住民の調査を通して，意見交換会では，居酒屋のような地元で楽しめる施設のアイティアが，ヒアリングでは地元に住み続けたいという意見が多く聞かれました。これらのことから，住民は地元に愛着を持てるような，地域密着型のまちを理想としていることが明らかになりました。研究対象地域は，住民にとっては都心に出るための駅も近く，物価も安いので，毎日の暮らしには便利な所だという一定の評価があり，前述した通り，ほとんどの調査した住民が地元で住みつづけたいとの希望をもっています。そのため，自分自身や子孫も永く住むことを前提にして，あせらず長い時間をかけて，協議を重ねて暮らしやすいまちの探求，まちづくりの合意形成をはかっていくことがこの研究対象地域では可能だと考えられます。

そこで，本章１．で前述した地元のまちづくりを「どうにかしたい」という思いに対する解決策として，今まで行政が個々に行っていた事業や住民が持つ大山街道のまちづくりについての意見を交換する場「大山街道まちづくり意見交換会」を設け，大山街道のまちづくりの中心となるような活動を続けていくことを提案します。この中で、住民はまちの現状や将来への展望など様々な話し合いを続け、成果をともに確認しながら、次に述べるまちづくりの段階を繰り返しながら長期的にまちづくりを進めていくことを目指していきます。この中で，住民ヒアリングの際に住民の一人から出てきた「人気（じんき）[1]のいいまちづくり」をまちづくりの目標として設定しました。人気＝コミュニティであり，研究対象地域で新しいまちづくりのためのコミュニティを形成することを目標とします。（図 7-2-1）

その理由として，研究対象地域地区の歴史を背景とした住民の気質があります。第２章で述べたように，大山街道沿いは江戸時代に開けたまちであり，当時の上方（関西）方面から

---

[1]人気（じんき）：その地方一帯の人々の気風。（三省堂・大辞林から）

移住してきた人が，繁栄の基礎を築きました。このような気質が現在にも引き継がれているようで，住民への調査を通して，長年研究対象地域に住んでいる住民からはこれから新しく街道沿いのマンションなどに住む人々と一緒にまちづくり活動に取り組んでいきたいという姿勢が感じられました。住民のこのような気風（気質）は，今後のまちづくりの核となり得ると考えます。

さらなる理由として，第１章で述べた「従来型コミュニティ」が希薄になったということがあります。新住民と一緒にまちづくり活動をしていきたいという一方で，新住民との関係が町会などで希薄になっているという悩みも聞かれました。また，マンションの増加で，隣に誰が住んでいるのも見えない状況がこの研究対象地域にも見られます。まちの活性化や安全，住みやすさという点からいって，コミュニティは大切な要素といえます。住みやすいまちづくりを形成していくため，良質な人気＝コミュニティを形成していくことが重要です。

これらの活動は，地域住民が主体的に進めていくことが前提ですが，行政も財政的・技術的な協力・支援を行っていく必要があります。例えば，活動資金の助成、他の団体との情報交換や紹介，活動場所の提供，広報活動の支援などです。

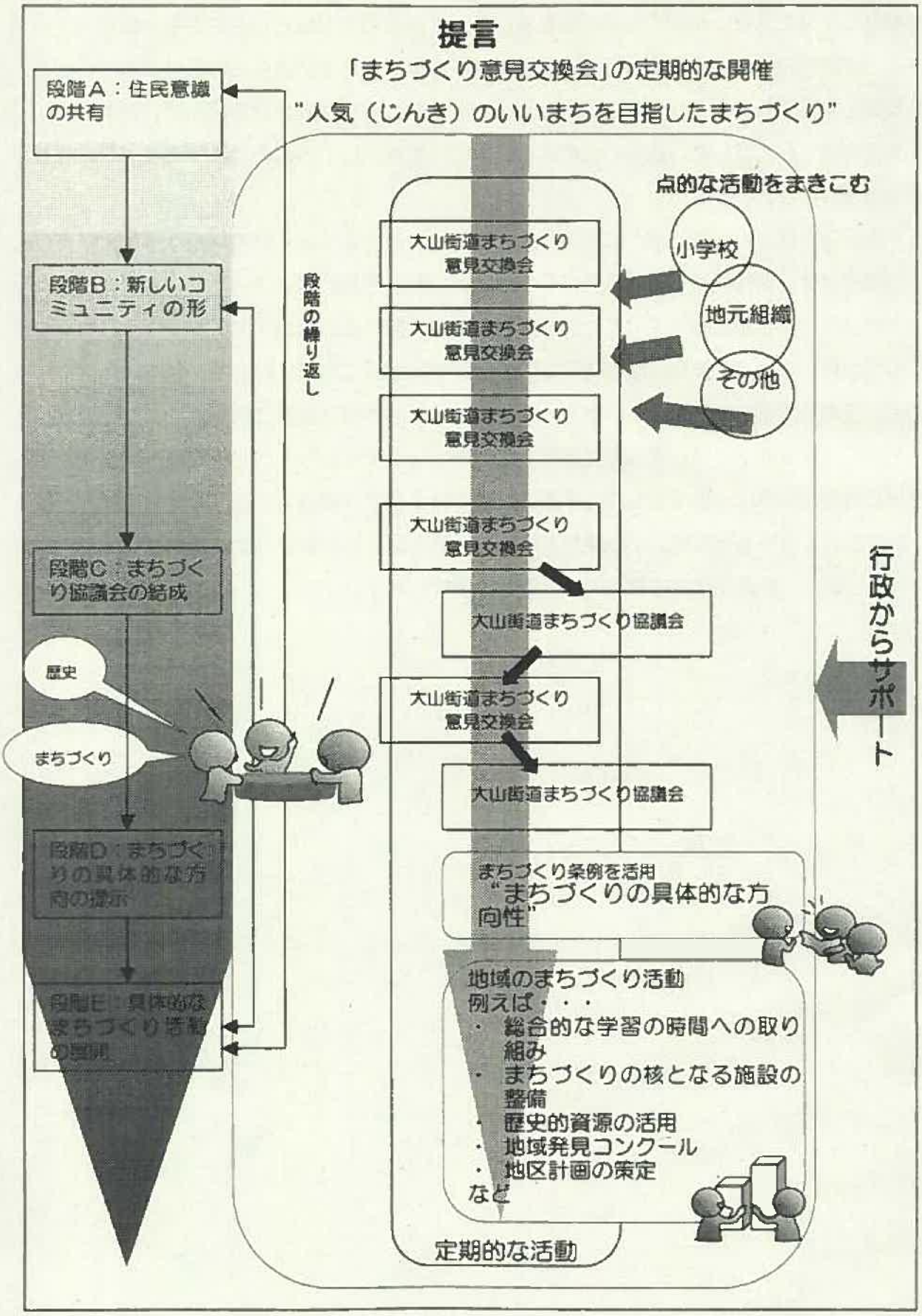

提言
「まちづくり意見交換会」の定期的な開催
"人気（じんき）のいいまちを目指したまちづくり"
段階A：住民意識の共有
段階B：新しいコミュニティの形
段階C：まちづくり協議会の結成
段階D：まちづくりの具体的な方向の提示
段階E：具体的なまちづくり活動の実現
段階の繰り返し
点的な活動をまきこむ
小学校
地元組織
その他
大山街道まちづくり意見交換会
大山街道まちづくり意見交換会
大山街道まちづくり意見交換会
大山街道まちづくり意見交換会
大山街道まちづくり協議会
大山街道まちづくり意見交換会
大山街道まちづくり協議会
行政からサポート
歴史
まちづくり
まちづくり条例を活用
"まちづくりの具体的な方向性"
地域のまちづくり活動
例えば・・・
・ 総合的な学習の時間への取り組み
・ まちづくりの核となる施設の整備
・ 歴史的資源の活用
・ 地域発見コンクール
・ 地区計画の策定
など
定期的な活動

図 7-2-1　提言

まちづくりの段階的活動―人気（じんき）のいいまちを目標として―

段階A　住民意識の共有

現在バラバラに行われているまちづくり活動を結びつけ，住民それぞれが持っている地域の未来像・まちづくりへの思いやまちづくりに対する知識を共有化するために、「大山街道まちづくり意見交換会」を継続して開催し，共通したまちづくり活動を通して意見の共有を行います。

段階B　新しい地域コミュニティの形成

意見交換会・まちづくり活動を続けていくことによって，地域の一体感や人々のつながりが生まれ，新しい地域コミュニティが形成されていくことを目指します。

段階C　大山街道まちづくり協議会の結成

川崎市が検討を進める「まちづくり条例[1]」の具体的な展開の一つとして、先行的に大山街道まちづくり協議会を結成します。

段階D　まちづくりの方向性の提示

まちづくり協議会が主導で話し合いを進めながら、まちづくりの具体的な方向性を示します。

段階E　具体的なまちづくり活動への展開

「大山街道まちづくり意見交換会」，まちづくり協議会を核に，ハード・ソフト両面から歴史を活かしたまちづくり活動を展開していきます。具体的な例としては，以下のようなことが考えられます。

・ 総合的な学習の時間への取り組み：小学校の総合学習の時間を活かして，地元小学校と連携した，歴史とまちづくりの学習を行うことが考えられます。
・ 核となる施設の確立：大山街道ふるさと館を歴史を活かしたまちづくり活動の核として確立することが考えられます。
・ 歴史的資源の活用：地元の歴史的資源，例えば濱田庄司などの著名人を活用したまちづくりを行うことが考えられます。
・ 地域発見コンクール：地域の写真や絵，我が家の家宝など代々受け継がれているものの発表などを通して，まちづくりと歴史について造詣を深めることが考えられます。
・ 地区計画の策定：まちなみに対する規制を策定していくことも考えられます。

---

[1] まちづくり条例：1981 年、神戸市が最初に制定し， 1990 年前後のバブル期には、湯布院町・掛川市・真鶴町などが、土地利用規制における都市計画法の不備を補う目的で、まちづくり条例を制定しました。その後、地区レベルまでさらに詳細に定めるための手段として、鎌倉市などでまちづくり条例がつくられました。まちづくり条例には、法定都市計画を補うものや、市民参加を促進するものなどがあります。川崎市では市民参加の仕組みづくりとしてのまちづくり条例の制定を検討しています。

3．提言における今後の課題

提言を実現するにあたっては，次のようなクリアするべき今後の課題が考えられます。

① 所管部局の連携

行政が「まちづくり意見交換会」をサポートしていく上で，各部局の役割分担について次のような案が考えられます。（図 7-3-1）図のように，各局が協力体制を組みながら、担当セクションを越えて住民の活動を総合的に支援することが必要です。

また、従来のような行政の縦割りの弊害を避けるため、より住民にとって身近な存在である区役所の，住民への総合的な窓口としての役割が特に重要となります。

② 運営のサポート

行政が「まちづくり意見交換会」という継続的な活動をサポートしていく上では、活動に必要な予算の確保と，技術的なサポートは必要不可欠です。

③ まちづくりの組織づくり

地域の声を的確にまちづくりに活かしていくためには、様々な人々が参加し、また、自由に意見が述べられる雰囲気と場づくりが必要となります。そして異なる意見を自らが調整し、合意形成を図る努力も求められます。このため、「まちづくり意見交換会」の組織化にあたっても、年齢や階層を越えてできる限り幅広い人々が参加できる仕組みと、参加した住民自らが主体的に合意形成が図れる運営が必要です。

④ 多様な人々の参加と小学校との関係づくり（総合的な学習の時間などの活用）

様々な人々が参加するためには、まちのカギ、キーパーソンとなる人を探し、積極的に参加を求めることが必要です。若者，新住民についても，既存の組織があれば，中心となって活動している人に働きかけをすることが、多くの参加者を誘発するきっかけとなります。また、小学校についても，総合学習の時間などを活用し、子供達を通して地域の歴史や成り立ち、まちづくりに興味を持ってもらう活動と、関係を深める努力も必要です。

⑤ まちづくりの意識の浸透

地域住民のまちづくり意識の浸透・向上には、常に自身でまちを見て、まちを考えることが必要です。このため、地域で開催されるイベントや特徴的な活動を行っている人の紹介、歴史的な由来の解説など、広報活動も有効な手段のひとつといえます。

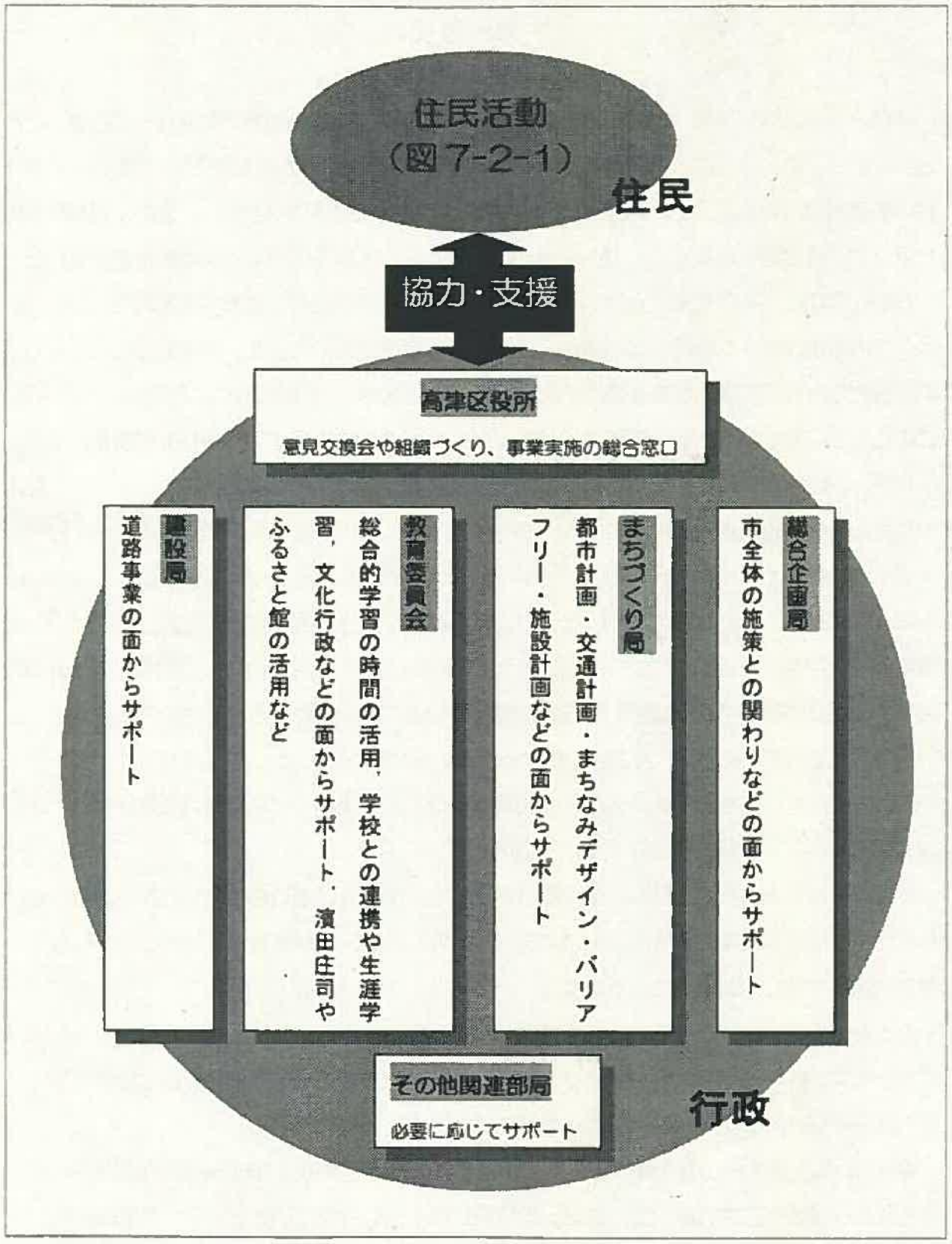


図 7-3-1　各部局の役割分担（案）

おわりに

本研究チームは、平成13年7月から約8ヶ月間にわたり、研究活動を行ってきました。活動を行うにあたっては、机上論とならないよう、また、地域の実情の把握に努め、より具体性のあるものとなるように、地域を歩き、地域の方々へヒアリングを行い、また、他都市へのヒアリング及び視察をすることで、自身の目で見ること、自身で感じることを重視しました。

しかしながら、本研究チームは、政策形成能力の向上を目的としたもので実現性に乏しいことなどの理由から、地域住民との接触については大変気を使いました。接するときにはこの活動が研究であり即施策に反映するものではないことを説明し、誤解のないよう努めてきました。このことをご理解いただき、ご協力をいただいた地域の方々に厚く御礼申し上げます。

まず、地域を案内していただいた鈴木穆さん、お忙しい中意見交換会に出席いただいた鈴木清次さん、島崎光順さん、鈴木彰さん、森谷金次さん、中村芳郎さん、岡野洋貴さん、村田浩一さん、岩森耕太郎さんありがとうございました。また、ヒアリングにご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。そして、伊勢原市では伊勢原市市長公室企画調整室 横溝室長と宍戸主査、川越市では川越市政策企画部政策企画課 松田様と前任の加藤様、元蔵の会会長 馬場様と街並み委員会会長 可児様、お忙しい中ご教示ありがとうございました。

研究をとおして私たちは、人の心に触れることの大切さを学びました。「まちづくりは人づくり」とはよく言ったものです。人と人との繋がりなくしてまちづくりはありえません。大切なのはどのようにして繋がっていくかだと思います。

地方分権が今後さらに加速し、市役所は市民にとって身近に感じられることがいいのかもしれません。特に川崎市は政令指定都市であり、南北に細長い地形を有していることからも、市域の一体感が得にくい状況にあります。

人と人の繋がり、地域の繋がりを肌で感じ、本研究をとおして私たちにも地域の方々と細いながらも繋がれたことは大きな成果だと感じています。ただ歴史を振り返ることだけでなく子孫へ歴史を紡いでゆくためのまちづくりをする重要性を感じます。

最後に、本研究チームの指導をしてくださいました総合企画局都市政策部 伊藤副主幹、本木副主幹ありがとうございました。また、本研究を快く活動させていただいた各職場の皆様、本当にありがとうございました。

政策課題研究Aチーム一同

資料

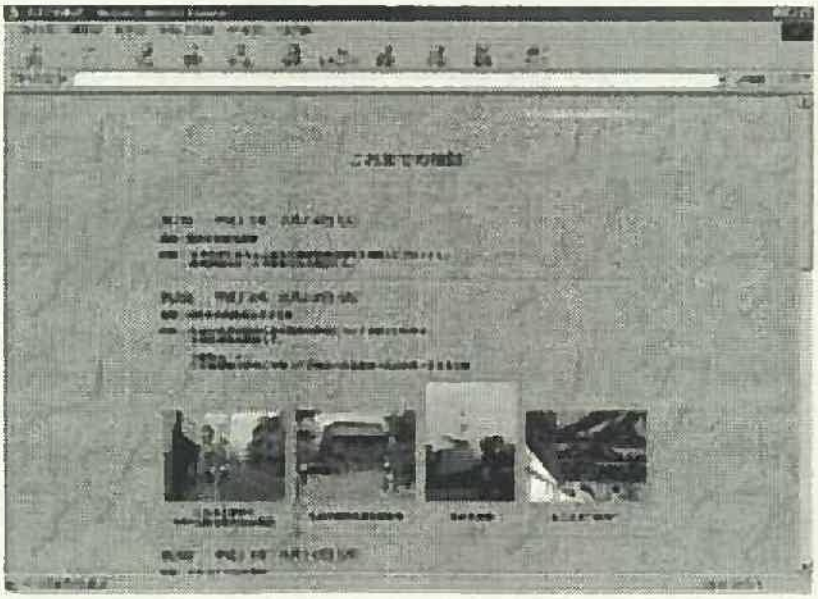
●活動記録

年月日	場所	内容
平成13年　7月24日	高津区役所会議室	大山街道に関する資料収集と現地散策ルートの検討
平成13年　8月29日	川崎市大山街道ふるさと館	現地の散策
平成13年　9月10日	まちづくり局会議室	現地散策のまとめと法的手法の勉強会
平成13年10月　4日	まちづくり局会議室	今後のおおまかなスケジュールを検討
平成13年10月10日	総合企画局会議室	市民へのアンケート内容の検討及びヒアリング対象者の選定
平成13年10月31日	総合企画局会議室	今後の方針とアンケート内容の決定
平成13年11月　6日 平成13年11月　9日	神奈川県伊勢原市 埼玉県川越市	２つに分かれて両市にヒアリング後，現地を見学
平成13年11月12日	総合企画局会議室	中間報告会準備
平成13年11月30日	いさご会館会議室	中間報告会
平成13年12月12日	総合企画局会議室	ヒアリング最終調整
平成14年　1月　7日	総合企画局会議室	報告書の内容確認
平成14年　1月24日	まちづくり局会議室	報告書の内容確認と意見交換会の準備
平成14年　2月　5日	川崎市大山街道ふるさと館	意見交換会
平成14年　2月28日	総合企画局会議室	報告書の内容確認
平成14年　3月12日	高津区役所会議室	報告書の内容確認
平成14年　3月25日	高津区役所会議室	報告書の内容確認
平成14年　4月　5日	高津区役所会議室	報告書の内容確認

●ホームページの運用

本研究にあたり，Aチームでは図１のようなホームページを開設・運用し，研究員間での検討内容や打ち合わせの日程などについて情報の共有を図りました。

図１　研究Aチームホームページ



●ヒアリングフォーマット

大山街道に関するアンケートのお願い

日ごろより本市行政にご協力いただき、誠にありがとうございます。

現在、川崎市では若手職員研修の一環として「歴史を生かしたまちづくり手法の検討～大山街道をケースとして」をテーマに、研究活動をすすめています。

大山街道は、古くは雨乞いのための「大山詣で」に由来する信仰の道であり、江戸時代には五街道を支える脇往還として、商業・交通の拠点となり栄えました。

私たちは、このような歴史をもつ大山街道をめぐる地域にお住まいの、また深い関係のあるみなさまに、まちづくり及び大山街道についてどのようなイメージをお持ちか、あるいは今後どのような地域にしていきたいか、等のご意見をうかがい、今後の研究活動の参考にさせていただきたいと考えております。

お忙しいなか恐縮ですが、ご協力をよろしくお願いいたします。

※本アンケートの郵送等は、平成１３年＊＊月＊＊日までにお願いいたます。

※本アンケート結果を踏まえた研究発表を来年５月に予定（詳細は未定）しております。

川崎市政策課題研究Ａチーム
連絡先：総合企画局都市政策部
TEL　200-2168

１　ご自身についてお伺いします。　あてはまるものに○をつけてください。

①　性別

男性　女性

②　年齢

～１９歳、　２０歳～２９歳、　３０歳～３９歳、　４０歳～４９歳、　５０歳～５９歳、
６０歳～６９歳、　７０歳～７９歳、　８０歳～

③　現在のお住まいの地域

（　　丁目）

④　現在のお住まいに住んでいる年数

（　　年間）

２　大山街道についてお伺いします。　あてはまるものに○をつけてください。

①　「大山街道」という道路の存在を知っていますか？

（ア）名前も道路の位置も知っている

（イ）名前は知っているが、正確にどの道路かはわからない。

（ウ）まったく知らない。

② 大山街道の歴史的な背景を知っていますか？

(ア) 知っている。

(イ) 歴史的背景のある道路とは知っているが，詳しくは知らない。

(ウ) 知らない。

⇒（ア）と答えられた方へ

どのような歴史的背景を知っていますか？

[　　]

③ 現在の大山街道に歴史的な面影を感じますか？

(ア) 感じる

(イ) 少し（部分的に）感じる

(ウ) まったく感じない

④ 大山街道の歴史的イメージを残したほうがいいと思いますか？

(ア) そう思う

(イ) どちらでもよい

(ウ) そう思わない

(エ) その他（　　）

⇒（ア）と答えられた方へ

どのように歴史的イメージを残せばよいと思いますか？

[　　]

⑤ 現在の大山街道をどのようにしたいですか？

(ア) 活気がある商店街通り

(イ) 歴史を感じられる街道

(ウ) このままで良い

(エ) その他　（　　）

3　まちづくりについてお伺いします。

① 大山街道沿いのまちについて良いと思えるところはどこですか？

例）歴史がある。

商店街が近い（利便がよい）

住民の仲が良い　などどのようなことでもかまいません。

[　　]

② 大山街道沿いのまちについて課題と思うことはどこですか？

例）歴史を感じられない。

利便が良くない

などどのようなことでもかまいません。

［　　］

③ これからどのようなまちにしたいと思いますか？　あてはまるものに３つまで○をつけてください。

(ア) 利便性のよいまち

(イ) 文化・伝統を育むコミュニティーのあるまち

(ウ) 歴史が感じられるまち

(エ) 現代的なまち

(オ) 人が集まるにぎやかなまち

(カ) 落ち着いたまち

(キ) 住みやすいまち

(ク) 楽しく遊べるまち

(ケ) 歩きやすいまち

(コ) 買い物しやすいまち

(サ) 緑の多いまち

(シ) 美しいまちなみがあるまち

(ス) 安心して子育てができるまち

(セ) 他の地域にはない特色のあるまち

(ソ) 子供や高齢者を大事にするまち

(タ) 今のままでよい

(チ) その他（　　）

４　生活についてお伺いします。　あてはまるものに○をつけてください。

① 普段はどこで買い物することが多いですか？

(ア) 溝口駅周辺

(イ) 二子玉川駅周辺

(ウ) 大山街道沿い商店街

(エ) その他

② 大山街道沿い商店街はどれくらいの頻度で利用しますか？

(ア) 週１回以上

(イ) 月１回以上

(ウ) ほとんど利用しない

③ 大山街道付近にお住まいの方にお聞きします。

１０年後もいまお住まいの地域に暮らそうと思いますか？

(ア) そう思う

(イ) 今はそう思うが，先のことはわからない

(ウ) わからない

５　その他

① 大山街道に関して，ご意見等をご自由にお書き下さい。

（　　）

貴重なご意見ありがとうございました。

なお，平成１３年１２月１２日（水）午後６：３０から８：３０まで、場所は「ふるさと会館」にて，大山街道周辺に住まわれている住民の方々と市職員とで大山街道についての意見交換会を開催いたしますので，ふるってご参加くださるようお願い申し上げます。

（大山街道にご興味のある方の参加も歓迎いたします！）

軽食・飲み物はこちらでご用意いたします。

意見交換会参加について、○を記入してください。

参加する　　参加しない

意見交換会に参加される方は、詳細をご連絡いたしますので，下記のご連絡先等の記入をお願いいたします。また、意見交換会に参加されない方でも、今後，大山街道に関する私たちの研究活動にご協力頂けるかたは，差し支えなければご連絡先等のご記入お願いします。

（個人情報は，今回の目的以外には使いません。）

お名前

ご住所

電話番号　　（　　）

ＦＡＸ番号　　（　　）

Ｅメールアドレス　　@

※ ご協力いただける方法　（あてはまる番号に○をつけてください）

１　Ｅ（電子）メール　２　電話　３　ＦＡＸ　４　直接（訪問など）

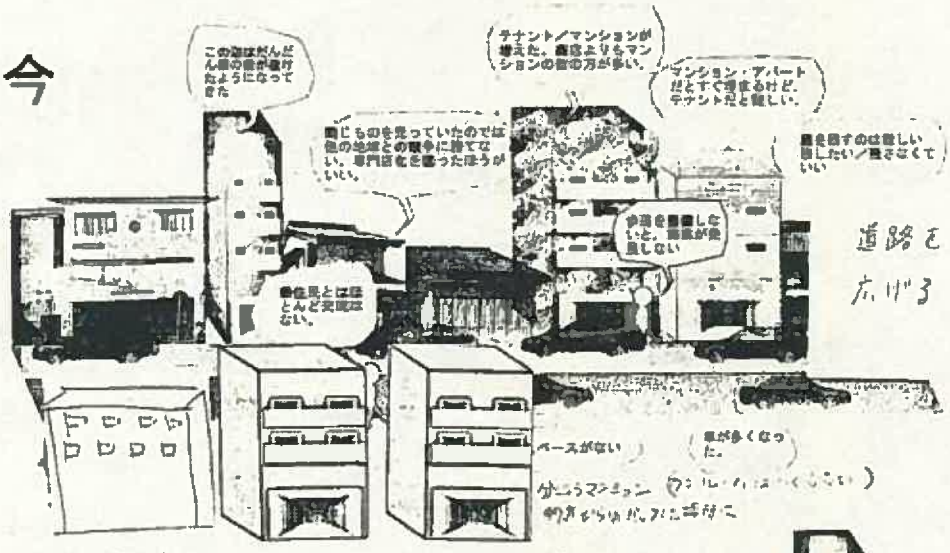
●意見交換会作業結果

<グループ1>

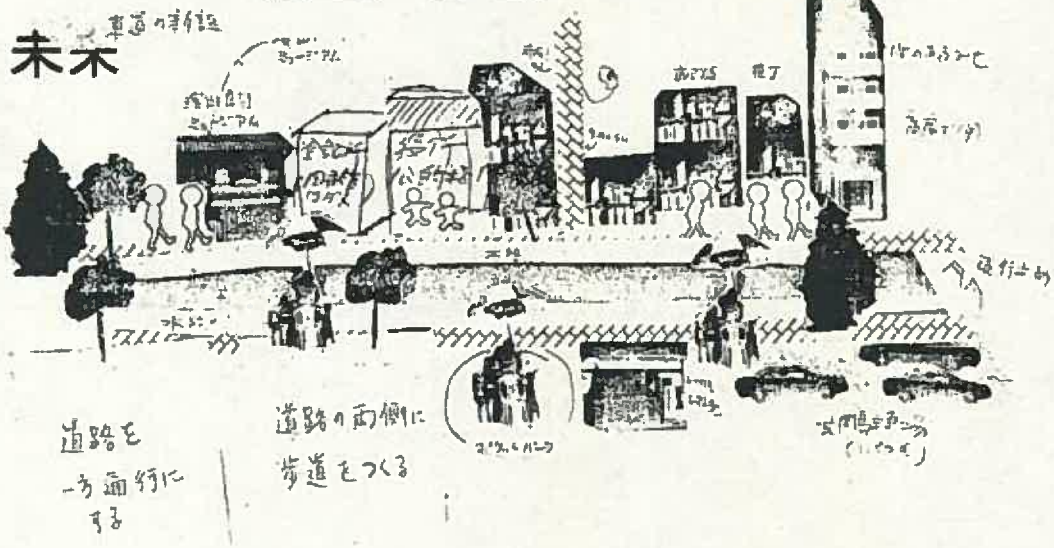
バーチャル大山街道

昔

今



未来

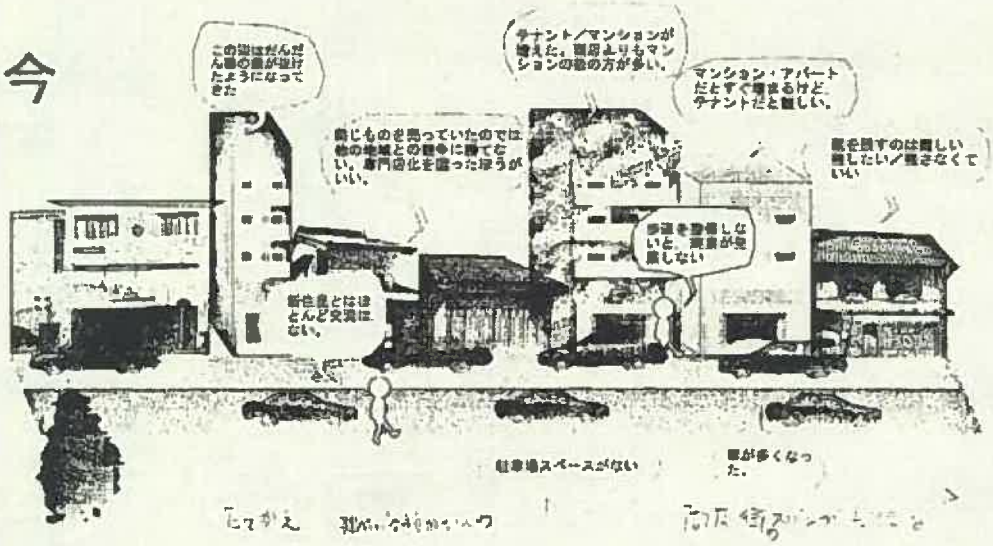


<グループ2>

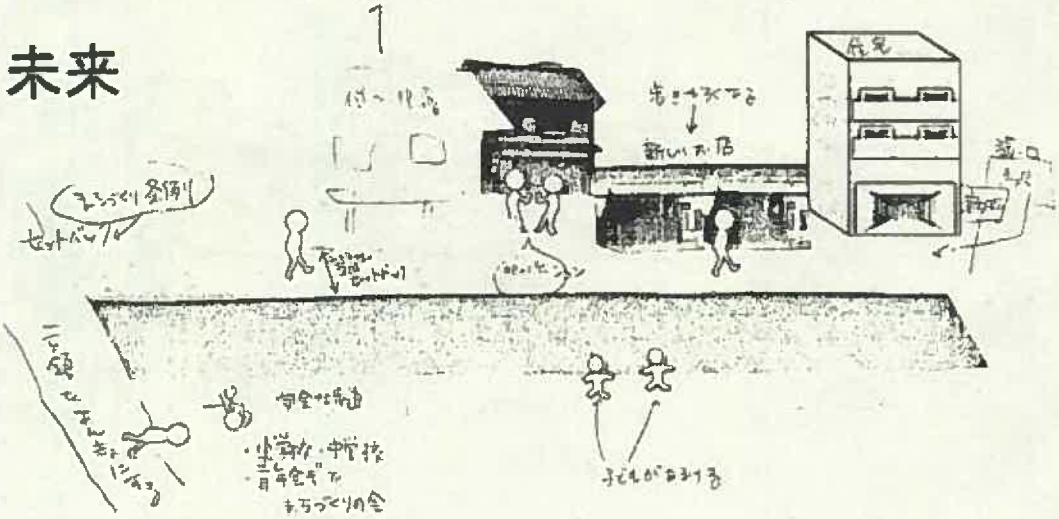
バーチャル大山街道

昔

今



未来



参考文献

～書籍，報告書，雑誌など～

文　献　名	作者名	発行者	発行年月
伊勢原観光ガイド	－	伊勢原市商業観光振興課	－
伊勢原まちづくりビジョン	－	伊勢原市市長公室企画調整室	平成10年4月
大山街道　二子から有馬までをたずねて	川崎市立多摩図書館	凛のロタイプ社	昭和48年3月
大山街道まちなみ整備実施計画策定調査報告書	－	産能大学情報科学研究所	平成2年3月
小樽観光マップ	－	小樽観光誘致促進協議会	平成13年
小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり	－	小樽市建築都市部都市環境デザイン課	－
おだるらしい魅力あるまちづくりに向けて	－	小樽市	平成5年
かながわのまちなみ100選	－	神奈川県	平成10年2月
鎌倉街道Ⅰ　歴史編	栗原仲道	有峰書店新社	昭和51年1月
寡にまかせて	濱田庄司	日本経済新聞社	昭和51年
川崎市大山街道ふるさと館活動報告書	川崎市大山街道ふるさと館	川崎市教育委員会	平成13年3月
川崎市史　通史編2	－	川崎市	平成6年3月
川崎市史　資料編4	－	川崎市	平成3年3月
川崎市都市景観基本計画	－	川崎市	平成8年3月
川崎市の交通体系について	－	広域交通対策室	－
川崎市文化マスタープラン	－	川崎市	平成9年3月
川崎市民俗文化財緊急調査報告書　第三集	－	川崎市教育委員会	昭和59年3月
川崎歴史ガイド　中原街道ルート	－	(財)川崎市文化財団	昭和59年3月
川崎新時代2010プラン	－	川崎市	平成5年3月
川崎市文化財調査集録17	小林昌人	川崎市教育委員会	昭和57年3月
かわさき文化財読本	－	川崎市教育委員会	平成3年3月
川崎歴史ガイド　大山街道ルート	－	(財)川崎市文化財団	昭和57年4月
川崎一歴史と文化	三輪修三	多摩川新聞社	平成7年11月
キラリたかつ　まちづくり白書	－	川崎市高津区	平成5年3月
クォータリーかわさき　第46号	川崎市市民局市民文化室	川崎市	平成7年12月
市内主要地区商店街通行量調査報告書	－	川崎市経済局中小企業指導センター	平成9年3月
造景No.26	－	(株)建築資料研究社	平成12年4月
高津郷土史料集第十二輯	－	川崎市立高津図書館	平成2年3月
高津郷土史料集第十三輯	－	川崎市立高津図書館	平成3年3月
高津郷土史料集第十四輯	－	川崎市立高津図書館	平成4年3月
高津郷土史料集第十五輯	－	川崎市立高津図書館	平成5年3月
多摩の街道　下	池上真由美 清水克悦 津波克昭	けやき出版	平成11年3月
土木工学大学 25 交通（Ⅰ）	－	土木大学系編集委員会	昭和57年3月
日経アーキテクチャー2001年10月1日号	－	日経BP社	平成13年10月
濱田庄司を顕彰する記念館の検討	－	濱田庄司記念館検討プロジェクト	平成9年3月
二子大通り商和会商店街診断勧告書	－	神奈川県川崎地区行政センター	平成8年3月
ふるさとと川崎の自然と歴史　上	高橋嘉彦	多摩川新聞社	平成12年4月
文化かわさき　第19号	川崎市総合文化団体連絡会	川崎市市民局市民文化室	平成9年11月
平成12年度まちづくり局事業概要	－	川崎市まちづくり局総務部企画課	平成12年7月
やさしい川崎の歴史	小塚光治	川崎歴史研究会	昭和45年5月
リーフレット第18回企画展　川崎の大山信仰	－	川崎市立博物館	平成13年
歴史的建造物を訪ねて	－	小樽市建築都市部都市環境デザイン課	平成12年
わが町の歴史川崎	村上直	文一総合出版	昭和56年

参考文献

～ホームページ～

ホームページ名	URL
会津若松市ホームページ	http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/
飯田市ホームページ	http://www.city.iida.nagano.jp/namiki/main.html
飯田まちづくりカンパニーホームページ	http://www.machikan.jp/
伊勢原市ホームページ	http://www.city.isehara.kanagawa.jp
小樽市のホームページ	http://www.city.otaru.hokkaido.jp
(株)まちづくり会津ホームページ	http://www.aizu.ne.jp/tmo/
川越見物	http://www2q.biglobe.ne.jp/~ysakamot/index.html
十勝毎日新聞社　WEB TOKACHI	http://www.tokachi.co.jp/kachi/jour/shoutan2/3.html
益子町観光協会	http://www.mta.mashiko.tochigi.jp
松下政経塾ホームページ	http://www.mskj.or.jp/chinika/9402ank7report.html
清口大通り商店会と大山貿通	http://www.mmjp.or.jp/mzkodrsk/
Yahoo!　地域情報	http://dir.yahoo.co.jp/regional/japanese_regions/shinetu/nagano/cities/iida/outline/

報告書名　**歴史を生かしたまちづくりの研究**
―大山街道を事例として―

平成１３年度　研究チームＡ報告書

発行日　平成１４年３月３０日発行

発行　　川崎市総合企画局都市政策部
〒２１０－８５７７
電話　（０４４）２００－３７０８
FAX　（０４４）２００－３８００

川崎市総合企画局都市政策部
〒２１０－８５７７
川崎市川崎区宮本町１
電話　(044)200-2094　定価　500円